

# 江東区のおゆみ

—江戸から令和—



# 江東区のおゆみ

—江戸から令和—

# はじめに

江東区の始まりは、東京湾に注ぐ河川のデルタ地帯の一部で、海面と散在する小島があるだけでした。明治に入り、江東区は工業地帯として発展、明治11年には深川区が、昭和7年には城東区が発足しました。そして昭和22年3月、深川区と城東区が合併し江東区が誕生したのです。

昭和の工場跡地への集合住宅の建設ブームなどを経て、平成に入ると人口が急増し、また、豊洲・有明をはじめとする臨海部の開発が進み、江東区は豊富な水資源を生かした「水彩都市・江東」として発展しました。

平成12年4月1日施行の「地方自治法等の一部を改正する法律」により特別区は、約半世紀にわたる自治権の拡充の活動の末に基礎自治体と位置付けられ、清掃事業などが都から区へ事務移管され、江東区も新たな歴史をスタートさせました。

今回発行する第13版は、前版の発刊以降、令和3年から令和7年までの内容を盛り込んだものです。

この間に、新型コロナウイルス感染症の影響により、無観客での東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催、第2期江東区長期計画（後期）策定等があり、これらを年表に追記しました。

そのほか区を取り巻く現況にあわせた更新・加筆を行いました。

江東区のみならず、江東区政の足跡や区内・外におけるさまざまな出来事を、年表と重要事項の解説によって記録したものです。この小冊子が、江東区の生い立ちや成長を知る一助となれば幸いです。

令和8年3月

江東区政策経営部広報聴課

## もくじ



区の木「クロマツ」



区の花「サザンカ」

事項編	年表編	主な参考文献
1 江東区の埋立ての変遷……………4	1 江戸時代以前……………56	江東区史（江東区）
2 江戸時代の産業……………20	2 江戸時代……………58	江東区年表（江東区）
3 木場の歴史……………26	3 明治～昭和20年……………66	江東の昭和史（江東区）
4 江東区の工業……………30	4 昭和21年～昭和64年……………74	集合住宅白書（江東区）
5 江東区とごみ問題……………34	5 平成元年～平成31年……………100	深川木場（林材新聞社）
6 江東区の集合住宅……………42	6 令和元年～令和7年……………149	
7 自治体・江東区のみ……………48		

本所深川絵図



**第一期は**、江戸の基礎建設の第一歩として、小名木川以西は隅田川沿岸から東は猿江辺りまで、そして小名木川以南では海辺新田が主として開発されました。

**第二期は**、隅田川に沿って海辺新田から南に開発し、今の佐賀、永代、清澄、富岡、門前仲町の辺りが埋め立てられました。さらに、このころ城東地区の砂村、亀高村、萩新田、又兵衛新田、亀戸村の一部も開発されました。

**第三期は**、都市復興のために隅田川以西の多数の寺院を深川・本所方面へ移転させ、また市民も深川に来るものが多く、武家の別邸などが多くこの方面にできました。このため土地の需要が生じ、また、江戸市内の塵芥等により海面を埋め立てることが土地の開発を進めることとなりました。



江東区は、天正18年（1590）に徳川家康が江戸入府をした頃は、ほとんどが葦の茂っている低湿地で、亀戸2・3・5・8・9丁目辺りに土地があった程度でした。

その後、本格的な江戸の都市建設が始まって、関西方面から続々とこの新開地に入り込み、土地の埋立て開拓に着手する人々が現れました。慶長元年（1596）のころ、墨田区南部から深川小名木川以北辺りの開発にとりかかった深川八郎右衛門もその一人でした。

江戸時代の開発は、その時期を次の3期に分けることができます。

- 第一期** 慶長から元和まで（1596～1623）
- 第二期** 寛永から承応まで（1624～1654）
- 第三期** 明暦から幕末まで（1655～1867）

## 江東区の埋立ての変遷



江東区の埋立の変遷

江東区の面積推移

江東区の本格的な土地造成は、江戸時代初期から始まりましたが、しだいに面積が広がり令和8年3月現在、区的面積は42.99km<sup>2</sup>(23区中6番目)です。

年次	面積 (km <sup>2</sup> )
明治 15年	11.40
24	14.18
大正 2	15.14
12	18.42
昭和 15	20.35
23	22.54
25	25.69
40	27.29
45	28.88
50	31.58
51	31.69
54	33.07
55	34.38
56	34.83
57	35.04
58	36.79
59	36.89
61	37.13
62	37.25
63	37.38
平成 元	37.47
2	37.56
3	39.02
4	39.10
9	39.20
10	39.24
11	39.44
15	39.48
17	39.49
18	39.80
19	39.94
23	39.99
26	40.16
令和 2	42.99

享保年間 (1716)	十万坪
毛利新田	(1728) 石川、小柴、豊田の3人の町人が土地を開拓し、石小田新田と名づけた。現在の東陽4・5・6・7丁目辺り 千田庄兵衛が江戸の塵芥で埋め立て、後に千田新田となった。現在の千田・千石・扇橋辺り 麴町の商人毛利某が開拓をしたのでこの名がついた。現在の毛利辺り

名所江戸百景「深川洲崎十万坪」歌川広重画



元禄年間 (1688)	元禄11年 (1698)	元禄10年 (1697)	寛文年間 (1661)
大塚新田 久左衛門新田 治兵衛新田 中田新田 六万坪・石小田新田	築地町 (十五万坪) 元加賀新田	平井新田	太郎兵衛新田
現在の北砂3丁目辺り 現在の北砂5丁目辺り 江戸の塵芥で埋め立て、正徳3年に六万坪町と命名した。さらに享保13年	築地町組合が埋め立てた。現在の木場・平野辺り 現在の北砂4・7丁目辺り 現在の北砂2・3・4丁目辺り 現在の北砂3丁目辺り 現在の東砂5丁目辺り	幕府が埋め立て、松平加賀守の別邸があったのでこの名がついた。現在の三好辺り 平井新田と称した。現在の東陽3・5丁目辺り	太郎兵衛が開拓し、その名がついた。現在の東砂1・3・4丁目辺り 久右衛門が海岸の埋立地に商店街を設けた (一説に元禄16年)。その後明和2年 (1765) に平井満右衛門、虎五郎が江戸城の堀さらいの時の土で埋め立て、平井新田と称した。現在の東陽3・5丁目辺り

## 2 明治〜昭和20年

明治以降は、東京市の枝川改修工事、隅田川改修工事等を中心として、埋立てが行われた。その主なものは、次のとおり。

現在の東陽1丁目……隅田川・大横川・神田川などの掘り下げ土砂で、明治19年から埋立てを開始、同20年に完成、5月に深川区に編入された。面積23万1405㎡。深川区洲崎弁天町。そしてこの町へ、本郷区根津遊郭が移転してきた。

東京港修築工事0号地（現在の木場1・6丁目的一部）……明治32年8月から塵芥による埋立てを開始し、大正2年に竣工、同3年8月に深川区に編入された。面積17万8928㎡。1万807㎡ 平久1丁目、6万8129㎡ 平久2丁目、8万5558㎡ 塩浜町。

南葛飾郡砂村新田 6万6549㎡  
南砂9丁目 7万3458㎡



埋立てが進む臨海部（令和7年）

枝川改修工事埋立地第1号（現在の塩浜2丁目的一部）……明治44年から塵芥による埋立てを開始し、大正10年8月に完成、同11年11月に深川区に編入された。面積24万1409㎡。塩崎町。

枝川改修工事埋立地第2号（現在の塩浜1丁目）……明治43年12月に着工し、

大正10年8月竣工、同11年11月深川区に編入された。面積19万3630㎡。浜園町。

枝川改修工事埋立地第3号（現在の古石場3丁目的一部）……大正12年2月に竣工・編入された。面積3784㎡。

枝川改修工事埋立地第4号（現在の枝川2丁目）……昭和3年4月に竣工、同4年6月深川区に編入。面積26万7715㎡。

枝川改修工事埋立地第5号（現在の枝川1丁目）……昭和3年4月竣工、同4年6月深川区に編入。面積17万2815㎡。

隅田川改修工事埋立地第1号（現在の越中島3丁目辺り）……明治39年7月に埋立て決定され、大正5年に一部4314㎡を編入。その後大正13年・14年に震災残土で残りを埋め立てた。面積14万5455㎡。

枝川改修工事埋立地第6号（現在の豊洲3・4・5丁目の一部）……昭和5年7月に竣工し、同6年1月に深川区に編入された。面積24万9925㎡。

枝川改修工事埋立地第7号（現在の豊洲1・2丁目の一部）……大正末ごろから埋立てを始め、昭和4年10月完成、同5年6月に深川区に編入された。面積17万6133㎡。

第3期隅田川改良工事埋立地第5号（現在の豊洲1〜5丁目の一部）……昭和6年に着工し、翌7年5月竣工し、翌8年3月深川区に編入された。面積63万9463㎡。

第3期隅田川改良工事埋立地第6号（現在の東雲1・2丁目の一部）……昭和8年2月に完成し、翌9年3月深川区に編入された。面積41万7078㎡。

東京港修築工事（現在の豊洲3・4・5丁目の一部）……昭和12年12月に完成し、編入した。面積1万478㎡。

### 1 事項編

江東区の埋立ての変遷

表2 7号埋立地編入経過

編入年月日	竣工年月日	面積 (㎡)	編入町名
昭41. 2.15	昭40.11.17	369,599	辰巳1丁目(一部)
42. 4. 1	41.11.11	451,726	〃 2 〃 ( 〃 )

表3 8号埋立地編入経過

編入年月日	竣工年月日	面積 (㎡)	編入町名
昭43. 1.30	昭42. 8.29	218,311	潮見1丁目
〃	〃	282,795	〃 2 〃

表1 豊洲6丁目編入経過

編入年月日	竣工年月日	面積 (㎡)	編入町名
昭33. 7.15	昭31. 2.27	106,251	豊洲6丁目(一部)
33.10. 1	32.12.16	22,800	〃 〃 ( 〃 )
34. 2. 1	33. 2.15	38,529	〃 〃 ( 〃 )
34. 5. 1	33.11.13	34,562	〃 〃 ( 〃 )
35. 3. 1	34. 7.13	320,963	〃 〃 ( 〃 )
36. 6.10	38. 6.27	150,107	〃 〃 ( 〃 )
37. 5. 1	36.11. 1	6,760	〃 〃 ( 〃 )
38. 4.20	37.11.30	38,970	〃 〃 ( 〃 )
40. 1.20	39. 6.23	160,275	〃 〃 ( 〃 )
平15. 1.29	平14. 8.30	2,700	〃 〃 ( 〃 )
16. 4. 6	15.12.24	2,996	〃 〃 ( 〃 )
〃	〃	〃	〃 〃 ( 〃 )
19. 2.26	18. 9.22	140,142	〃 〃 ( 〃 )

※5丁目含む

### 3 昭和20年以降

豊洲6丁目…昭和23～25年にかけて豊洲埠頭を埋め立て、同29年7月に東京ガス・東京電力用地の埋立て許可がなされ、さらに31年度から鉄鋼埠頭の埋立てを開始し、33年から40年にかけて編入された。総面積87万9217㎡。(表1)

7号埋立地(現在の辰巳の一部)…隅田川改修工事埋立地として、昭和5年頃着工し、41年と42年に編入された。(表2)

8号埋立地(現在の潮見)…隅田川改修工事第8号として、昭和2年塵芥による埋立てを開始。37年12月に塵芥による埋立て終了。その後整備を進め、42年8月29日完成。43年1月30日編入された。面積50万1106㎡。(表3)

10号埋立地(現在の有明)…隅田川改修工事埋立地第10号として昭和5年に埋立てを開始、29年から一部が編入されている。(表4)

11号埋立地(現在の東雲の一部)…隅田川改修工事埋立地第11号として、昭和35年8月認可され、同10月着工。40年から編入された。(表5)

12号埋立地(現在の辰巳の一部)…昭和39年1月に着工し、

48年から編入を開始した。(表6)

13号埋立地(現在の青海)…昭和38年9月にその1、42年3月にその2の埋立て免許があり、49年1月にその1が竣工、53年1月から56年11月にかけてその2の一部が竣工した。その帰属は、江東、港、品川の3区の申請により、自治紛争調停に付され、57年7月に調停案が示され、同10月、3区が調停案を受諾し、その境界が確定し、58年1月から編入が始まった。(表7)

14号埋立地(現在の夢の島、新木場、新砂の一部)…昭和14年7月飛行場設置のため埋立てを開始したが、16年頃資材不足で工事を中止した。戦後になり、一時海水浴場としてにぎわった。昭和32年12月、ごみ埋立処理場として埋立てを開始し、42年3月に塵芥による埋立てを終了した。その後、土地としての整備を進め、44年から編入を開始した。(表8)

15号埋立地(現在の若洲)…昭和40年11月に塵芥による埋立てを開始し、49年5月に塵芥による埋立て終了。その後整備が進み、54年から一部が編入されている。(表9)

中央防波堤埋立地…令和元年10月、境界確定訴訟における第一審判決を江東区と大田区の両区が受け入れ、長年にわたつ

① 事項編

江東区の埋立ての変遷

表4 10号埋立地編入経過

編入年月日	竣工年月日	面積 (㎡)	編入町名
昭29. 1. 1	昭28. 6.18	101,987	有明1・2丁目 (一部)
33. 4.20	32.11.15	293,318	〃 1 〃 ( 〃 )
36. 8. 1	35.10. 3	250,311	〃 2 〃 ( 〃 )
37.12. 1	36. 9. 1	348,933	〃 〃 〃 ( 〃 )
40. 7.20	40. 3.31	148,942	〃 〃 〃 ( 〃 )
54. 4. 1	49. 1. 4	690,843	有明4丁目 ( 〃 )
	50. 4. 4		
	53. 1.31		
〃	53. 1.31	561,446	〃 3 〃 ( 〃 )
63. 4. 1	63. 1.11	126,465	〃 〃 〃 ( 〃 )
平元. 7.10	平元. 3.24	71,847	〃 〃 〃 ( 〃 )
2. 8.15	2. 5.18	14,782	〃 〃 〃 ( 〃 )
3. 4.15	2.11.15	172,232	〃 〃 〃 ( 〃 )
3.11. 1	3. 7. 6	40,030	〃 〃 〃 ( 〃 )
5. 1.20	4. 9.18	28,212	〃 〃 〃 ( 〃 )
7. 4.21	6.10. 6	9,006	〃 〃 〃 ( 〃 )
7. 9. 1	7. 3.28	152,427	〃 〃 〃 ( 〃 )
15. 4.18	14.11.14	18,407	有明1丁目 ( 〃 )
15. 7.24	15. 5.28	18,397	〃 〃 〃 ( 〃 )
17. 5. 2	17. 1.12	9,375	〃 〃 〃 ( 〃 )
17.11.18	17. 5.30	560	〃 〃 〃 ( 〃 )
18. 1.20	17.10. 6	305,560	〃 〃 〃 ( 〃 )
22.12. 3	22. 6. 7	53,234	〃 〃 〃 ( 〃 ) ※東雲1丁目含む 有明3丁目 ( 〃 )

表5 11号埋立地編入経過

編入年月日	竣工年月日	面積 (㎡)	編入町名
昭40. 7.20	昭40. 3.31	469,460	東雲2丁目 (一部)
〃	〃	71,709	〃 〃 ( 〃 )
42. 4. 1	41.11. 7	68,592	〃 〃 ( 〃 )
44. 1.30	43. 9. 3	19,152	〃 〃 ( 〃 )
45. 4.15	45. 1.22	28,416	〃 〃 ( 〃 )
50. 3. 1	49. 8.31	38,608	東雲1・2丁目 ( 〃 )

表6 12号埋立地編入経過

編入年月日	竣工年月日	面積 (㎡)	編入町名
昭48.11. 1	昭48. 6. 6	54,126	辰巳1丁目 (一部)
〃	〃	85,599	〃 2 〃 ( 〃 )
〃	〃	400,090	〃 3 〃 ( 〃 )
51. 4. 1	50. 12.1	108,368	〃 〃 〃 ( 〃 )
平 8. 1.22	平 7. 7.28	45,596	〃 〃 〃 ( 〃 )

南東からの江東区全景 (令和7年)



た帰属問題に終止符が打たれた。これに伴い、令和2年4月、内側埋立地に海の森1〜3丁目が新設された。  
 なお、外側埋立地の江東区帰属部分については、埋立工事未竣工の区域が存在することから、令和7年9月末日現在、地方自治法第260条第1項の規定に基づく町区域の新設は行われていない。(表10・11)

① 事項編

江東区の埋立地の変遷

表 10 中央防波堤内側埋立地編入経過

編入年月日	竣工年月日	面積 (㎡)	編入町名
令 2. 9. 4	昭 63. 3.15	952,953.12	海の森 1・2・3 丁目
〃	平 3. 7.26	169,096.75	〃
〃	6.10. 6	269,832.19	〃
〃	7. 7.28	64,254.57	〃
〃	8.11.25	422,754.13	〃
〃	25. 3.29	6,854.00	〃
〃	26. 3.18	6,854.00	〃

表 11 中央防波堤外側埋立地編入経過

編入年月日	竣工年月日	面積 (㎡)	編入町名
令 2. 9. 4	平 9. 7.17	736,043.93	未定
〃	19.10.23	118,054.53	〃
〃	28. 4.28	33,460.35	〃
令 3. 8.13	令 3. 4. 9	19,640.50	〃

※表 10・11 に記した面積は、江東区にて地方自治法第 9 条の 5 第 1 項の規定に基づく「あらたに生じた土地の確認」を行った面積である。  
また、編入年月日は「あらたに生じた土地の確認」の東京都告示が行われた日付としている。

表 7 13号埋立地編入経過

編入年月日	竣工年月日	面積 (㎡)	編入町名
昭 58. 1. 1	昭 49. 1. 4	409,007	青海 1 丁目 (一部)
昭 58. 1. 1	53. 1.31	1,248,377	青海 2 丁目 (〃)
	54. 7.30		
	56.11.19		
61.11. 1	61. 7. 9	120,000	〃 〃 〃 (〃)
平 2. 8.15	平 2. 5.18	129,666	〃 〃 〃 (〃)
4. 8. 1	4. 3.19	97,357	〃 〃 〃 (〃)
4.11.10	4. 7.14	100,140	〃 〃 〃 (〃)
7. 4.21	6.10. 6	109,959	〃 〃 〃 (〃)
11. 4.20	5. 6.29	289,502	青海 1・2 丁目 (〃)

表 8 14号埋立地編入経過

編入年月日	竣工年月日	面積 (㎡)	編入町名
昭 45. 1. 1	昭 44.10. 6	150,467	新砂 3 丁目 (一部)
47.11. 1	47. 7.15	522,446	新木場 1 〃 (〃)
〃	〃	498,786	〃 2 〃 (〃)
〃	〃	322,352	〃 3 〃 (〃)
50. 3. 1	49. 5.28	107,427	〃 1 〃 (〃)
〃	〃	666,629	夢の島 (〃)
54. 4. 1	53. 7.27	42,726	新木場 1 丁目 (〃)
〃	〃	89,297	〃 4 〃 (〃)
55. 5. 1	54.12.19	80,076	夢の島 (〃)
〃	〃	31,578	新木場 1 丁目 (〃)
〃	〃	34,907	〃 3 〃 (〃)
〃	〃	302,170	〃 4 〃 (〃)
57. 2. 1	56. 3.31	122,777	〃 〃 〃 (〃)
57.12. 1	57. 7.30	97,020	夢の島 (〃)
59. 9. 1	59. 4. 6	5,779	新砂 3 丁目 (〃)

表 9 15号埋立地編入経過

編入年月日	竣工年月日	面積 (㎡)	編入町名
昭 54.11. 1	昭 54. 3. 1	1,313,376	若洲 (一部)
57. 2. 1	56. 9.18	81,219	〃 (〃)
61. 5. 1	61. 1.21	241,514	〃 (〃)
63. 4. 1	63. 1.11	3,354	〃 (〃)
平元. 1.17	63.10.28	12,906	〃 (〃)
元.11. 1	平元. 5.16	91,011	〃 (〃)
2. 4.10	2. 2. 1	23,390	〃 (〃)
5. 8.25	5.11. 9	11,739	〃 (〃)
6. 5.10	5.11. 9	40,497	〃 (〃)
8. 9. 2	8. 4. 2	56,657	〃 (〃)

## 江東区の埋



現在の区役所の位置

### 江戸中期

江東地区の開発は、徳川家康の入府による江戸の拡大とともに始まります。それ以前はほとんどが低湿地で、亀島、大島、永代島などの地名が見られるように、小島が点在していました。

江戸初期には行徳の塩を運ぶために小名木川が開削され、物資流通の要路となり、番所橋付近には舟の関所（船番所）が設けられました。さらに、堅川、大横川、横十間川等も開削され、隅田川に新大橋、永代橋が架けられました。



現在の区役所の位置

### 戦災→復興

戦争が終わると疎開者の帰郷、戦地からの復員などで人口が急増し、都営住宅の建設が進められました。

このころから続々と埋立が進められ、潮見、辰巳、東雲、有明、青海、夢の島、新木場、若洲が江東区に編入されました。

## 立ての歴史



現在の区役所の位置

### 明治中期→大正中期

明治初期から紡績、食品など軽工業の工場が建ち、明治末期から大正にかけて重化学工業が発達しました。

埋立ては、隅田川改良工事のしゅんせつ残土やごみの処分により、現在の東陽、木場、塩浜、古石場等の一部ができました。



現在の区役所の位置

### 昭和60年

昭和22年に江東区が誕生してから半世紀が過ぎました。徳川家康のまちづくりによって始まった埋立ては、現在、ごみの急増に伴い最終処分場へと性格を変え必要不可欠となっています。中央防波堤の内側も外側も満杯となり、さらにその外側に、新しい海面処分場が建設され埋立が進められています。

昭和33年当時の砂村ネギ畑



## 江戸時代の産業

### 1 農業

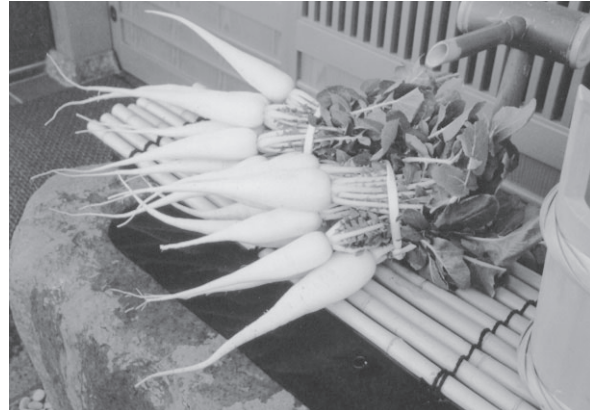
江東区は江戸時代には、大都市江戸へ野菜を供給する近郊農業地帯であった。本区の農業がこのように発展したのは、次の理由によるものである。

- ① 平坦な低湿・肥沃な沖積層の土地であった。
- ② 新田開発・埋立てによる農地の存在。
- ③ これらの土地が海に近いため、米作には不適当。
- ④ 大消費地江戸都心部に近い。
- ⑤ 江戸から出る糞尿、ごみ等の肥料が豊富。
- ⑥ 水運の便が良い。

このような条件のもと、江東区は慶長年間（1596）の深川村開発に始まり、新田開発とともに近郊農業地帯として発展したが、江戸市街地の遠心的拡大にともない、深川地区から市街地化していった。当時の主な作物には、次のようなものがあった。

つまみ菜……寛政（1789）、享和（1801）の頃、信州野沢から勘右衛門が十万坪に移住して、つまみ菜の種をまいて栽培したのが始まりと伝

ちよつと小ぶりで辛みが強く、江戸っ子に好まれた亀戸大根



えられている。これが江戸市民に喜ばれ、後に砂村で大量に生産されるようになった。

亀戸大根……水神森（亀戸4丁目）辺りで多く生産され、江戸の人たちに大いに賞味されたもので、明治初年まで亀戸の名産であった。

京菜……初め亀戸で栽培されていたが、安政（1854）の頃から砂村で栽培され、砂村の名産となった。現在の京菜より葉柄が細く、いとなとていた。

砂村葱……土地のいい伝えによると、大坂城落城の際の落人が種子を持ってきて植えたのが始まりで、これに土をかぶせて軟白部が大きくできるようになり、さらにこれを改良して砂村葱となったと伝えられている。

砂村西瓜……延宝（1673）の頃江戸に伝わり、砂村の名物であった。

針ヶ谷胡瓜（青節成り）……万治年間（1658）から砂村で栽培された、都下最古のものである。促成栽培が行われ、毎年いつものを将軍家へ献上した。

砂村丸茄子（蔓細千成り）……古くから砂村で栽培されたもので、促成栽培によるはつものが喜ばれた。

小松菜……江戸中期から小松川地区に栽培されたので、その名がついたが、砂村でも多く栽培された。

促成栽培……中田新田（東砂5丁目辺り）の松本久四郎が、江戸ごみを用いた温室温床栽培を研究した。これは、温床の中へ江戸ごみを踏みかため、その

名所江戸百景「小奈木川五本まつ」歌川広重画



### 3 観 光

江戸時代の江東地区は、風光明媚な景色や、寺社の開帳、祭礼などの年中行事を中心として、江戸市民の行楽地であった。

**辰巳八景（深川八景）**……江東の地は、四季それぞれの趣のある景勝地があり、その代表的なものを辰巳八景または深川八景と呼んで詩歌や歌曲にうたった。八景の選定は、いろいろあるが、代表的なものは、次のようである。

◎永代橋帰帆、一の鳥居夕照、永代寺晚鐘、木場の落雁、塩浜秋月、洲崎晴嵐、佃の夜雨、二軒茶屋暮雪

◎永代の帰帆、八幡の晚鐘、仲町の夜雨、槽下の夕照、石場の暮雪、新地の晴嵐、佃町の落雁、洲崎の秋月

**観光名所**……辰巳八景以外の主な観光名所として、次のようなものがあり、いずれも多くの観光客でにぎわった。



上に1年前のごみの腐蝕したものをまき、むしろを敷いて発熱させる。そしてその上に種子をまいて土とむしろをかけ、障子で覆って発芽させる。発芽したあとは保温に注意をして4・5回移植し、日中2時間ぐらい日光にあてるだけで、あとは油障子で覆いをして寒さを防いだ。

このようにして促成栽培された茄子、胡瓜、隠元などが季節に先立って出荷され、はつもの好みの江戸市民にもてはやされた。

### 2 倉 庫・問 屋

江戸が大消費地として発展するにつれて、諸国の物資が江戸に送られてくるようになった。これらの物資は、主に海運、利根川・江戸川水系によって輸送された。そこで、①江戸市街地に近い ②水運の便がよい、等の理由から、隅田川の小名木川河口から永代橋付近にかけて、倉庫が建ち並び、米、雑穀、油、干鰯等の問屋取引が盛んであった。

**油会所**……江戸時代に、油は重要な生活物資であり、鰯などからとった動物性油と菜種などからとった植物性油があった。油倉庫は、福住、佐賀辺りにあり、江戸時代初期から油取引の重要地であった。とくに宝永（1704）から享保（1716）まで佐賀付近に油会所があり、油が盛んに取引された。

**干鰯場**……干鰯は江戸時代の重要な金肥であった。寛永年間（1624）

に初めて銚子、茨城辺りから江戸に出荷され、干鰯取引がさかんに行われた。元禄8年（1695）、森下4丁目辺りの小名木川沿いに干鰯の荷揚場をつくったが、同13年（1700）旧白河小学校付近に移し、銚子場と呼んだ。また、元禄14年（1701）に佐賀付近に永代場を、享保15年（1730）に深川付近に江川場を設けた。

背文銭



表



裏

十一波銭



表



裏

## 4 その他の産業

交通不便な時代であったので、出開帳にはとくに大勢の市民が集まった。本区での開帳は、元禄4年（1691）から幕末までの間に約500回行われた。開帳の回数が多い寺社は、富岡八幡宮（永代寺）、亀戸天神、浄心寺、洲崎弁天、香取神社などであった。

水産業……江戸時代の初期に、関西から漁業者が移住してきて漁業を営んだが、江東区では、寛永6年（1629）に熊井理左衛門ら8人が佐賀、永代、門前仲町、清澄付近を埋め立て、猟師町と称し、翌年から幕府へ魚介類を献上する等の公役に服したのが始まりである。

このほかにも深川の漁業者の数は多かったと思われる。

工業……江戸時代の江東区には、工業と呼べるものは少なかった。しかし、亀戸や千田、小名木川付近の銭座では、銅銭が作られ、大島釜屋堀付近では、釜六と釜七が鋳造業を営んだ。

そのほか、大工町（清澄）の造船業や大島の味噌・醤油の醸造業が盛んであった。

材木業……26ページを参照。



「洲崎初日の出の図」歌川国芳画

◎永代寺の庭園、泉養寺の蓮、浄心寺（平野）の庭、亀戸梅屋敷、富岡八幡宮歌仙桜、萩寺の萩、亀戸天神の梅と藤、入神明の太平榎、小名木川五本松、元八幡桜道、砂村の松並木、洲崎初日の出、佃島、洲崎の汐干狩、三十三間堂、五百羅漢さざえ堂、猿江摩利支天、辰巳花街など。

辰巳芸者……江戸の花街で幕府が公認していたのは吉原だけであったが、江戸市街が大きくなるにしたがって、各地で私設の花街が発生した。この私設花街のうち深川は辰巳と称して富岡八幡宮周辺を中心に繁栄した。深川は、客筋に江戸の通人とか、粹人と呼ばれる人が多く、深川芸者も江戸前といわれ、意気と粹を誇りとした。

寺社年中行事……区内の多くの寺社の祭礼なども、江戸市民の娯楽として欠かせないものであった。その主なものは、次のとおり。

◎法乗院（深川閻魔）の開帳（1・7月）、深川七福神・亀戸七福神めぐり（1月）、亀戸天神うそ替え（1月）、常光寺六阿弥陀巡礼（春・秋彼岸）、富岡八幡宮・富賀岡八幡宮の富士講（5・6月）、富岡八幡宮・亀戸天神の祭礼（8月）。

このほか彼岸には、霊巖寺、浄心寺（平野）、雲光院、羅漢寺、普門院などに多くの参詣者がおとすれた。

寺社の開帳……開帳は、寺社の本尊神体を参拝させることである。その寺社の本尊を開帳する居開帳と、遠隔地の本尊を借りてきて開帳する出開帳があり、



## 木場の歴史

3

### 1 木場の起り

徳川家康が江戸に幕府を開き、江戸城の修築をした際に奉仕した駿河、遠江、三河、紀伊、尾張等の伐採輸送業者で、江戸に残るものは幕府から保護され、木材業を営むことを許された。この時に店を構えたのは、神田鎌倉河岸、本材木町、茅場町、八丁堀などであった。

しかし、江戸市街の発展により、江戸に大火が相次ぎ、寛永18年（1641）の大火の際に材木置場が一因となり、また、材木が焼けて、品不足・値段の高騰など復興の妨げにもなるので、幕府は材木置場を市街地の外に集めることとした。

そこで、①江戸市中に近い ②人口が少なく大火の心配がない ③水運の便がよい、等の理由から、深川方面が材木置場選ばれた。深川で最初に材木置場ができたのは永代島（現在の佐賀、永代、福住辺り）で、その後元禄12年（1699）猿江に移ったが幕府御用地になったので、元禄14年（1701）に現在の木場の辺りに移転した。

その後、明治維新、関東大震災、戦災などの試練を乗り越えて、木場は発展

「江戸名所図会」深川木場



### 2 木場をとりまく情勢の変化

ところが昭和30年代になると、木場をとりまく情勢が変化し、移転が必要となった。

#### 〈企業側からの移転理由〉

- ①地盤沈下、防潮水門の設置により、筏の曳航が困難になった。
- ②河川にけい留している筏が台風時に護岸破壊等の原因となる。
- ③工場の騒音・粉塵・水質汚濁等の公害。
- ④交通量の増大により路上での作業が困難になった。
- ⑤これらの問題を解消する近代化、合理化のための土地がない。

#### 〈行政側からの移転理由〉

- ①東京港の港湾機能を整備する必要がある。
- ②江東地区の再開発及び防災拠点の整備が必要。
- ③中小企業の近代化、体質改善を図る。

第1回新木場まつり開催（昭和51年）  
木場の歴史



業種別にみる新木場（昭和57年）

業種	企業数
一時製材（加工等含む）	166
合板	5
乾燥等	5
問屋（原料・製品）	453
計	629

51年10月 新木場木材まつり開催。  
その後、昭和55年度から第二次移転が始まり、57年の完了時には、製材、合板製造、原木・製品問屋など、企業数は629社に及び、従業員数約1万名、取扱木材は200余種と世界有数の木材加工、流通基地「新木場」が完成した。

新木場移転始まる（昭和49年）



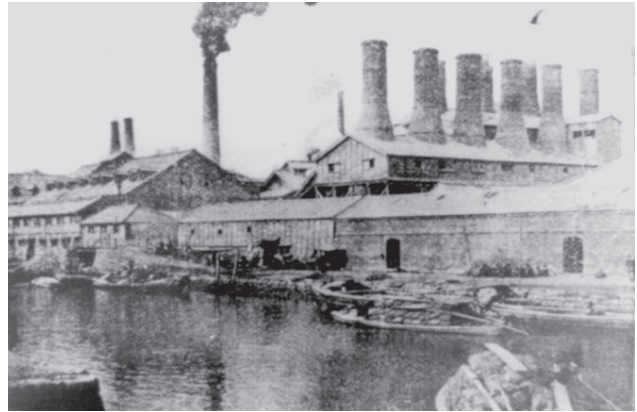
### 3 新木場移転

前述のような理由から、木場が新木場へ移転することになるわけであるが、その経緯は次のとおりである。

- 昭和30年頃 木材業者間に移転話が出る。
- 33年7月 東京木材問屋協同組合、東京製材協会、東京原木協同組合が「木場移転建設協議会」を設立。
- 36年4月 区議会が都議会へ陳情。
- 44年11月 都市改造会議で「江東地区再開発基本構想」を決定。
- 45年6月 都市改造会議で「木場対策基本方針」を決定。「移転希望企業は昭和47〜49年度にわたって、都の定めた土地利用計画のもとに14号地の土地払下契約を締結し、契約の翌年度末までに移転し、業務を開始しなければならない」という内容。
- 46年2月 木場移転建設協議会が発展的解散。新たに移転希望企業が「東京新木場木材商工協同組合」を結成。
- 47年11月 都が第一次移転組合に売却価格を発表。
- 49年4月 協同組合「銘林」が、新木場移転第1陣として営業開始。
- 50年3月 新木場用地売却完了。
- 51年9月 新木場への移転企業470社中444社が移転完了。



明治時代の浅野セメント工場  
出典「新撰 東京名所深川区之部」1909年  
東陽堂



## 江東区の工業

### 1 近代工業の始まり

江戸時代には、江東区の工業は、大島の釜六・釜七の鑄造業、造船業、醸造業など、わずかしかなかった。（25ページ参照）

しかし、幕末から明治初期にかけて、味噌、腹掛、足袋、下駄などの家内制工業があり、一部ではマニユファクチュアも行われていた。

江東区における近代工業の始まりは、明治政府によってもたらされた。明治政府は「富国強兵」「殖産興業」の旗じるしをにかけて、資本主義化をめざしたが、その第一歩として政府直営の工場に外国の機械技術を導入し、近代的機械的生産を開始した。

江東区においても、明治5年に清澄に大蔵省の手で、セメント製造所が建設され、後に工部省深川製作寮出張所となったが、ここで明治8年に日本で初めてセメントを製造した。

これを記念して、「セメント工業発祥の碑」が、清澄1-2に建てられている。しかし、官営工場の多くが経営不振で、後に財閥に払い下げられたように、深川製作寮出張所も、明治17年に浅野総一郎に払い下げられ、浅野工場となった。（現太平洋セメント）

### 2 軽工業の発達（産業革命前期）

官営工場よって始まった日本の資本主義は、明治10年代に産業革命期を迎える。一般に産業革命は、まず軽工業が発達し、次いで重化学工業が発達する。江東区においても、明治時代に紡績、食品などの軽工業の工場が建ち、明治末期から大正にかけて、重化学工業の発達が見られた。

産業革命期の江東区における、軽工業の発達状況は、おおむね次のとおりである。

**工業発展の条件**……産業革命期において、江東区には多くの工場が建設されたが、その条件としては、①水運の便がよく、原材料・製品の輸送に便利 ②消費地かつ労働力供給地であり、しかも政治・経済・交通の中心地である大都市東京の周縁部であった ③農地、武家屋敷跡などの土地が存在した、等があげられる。

**繊維工業**……江東区における繊維工業は、明治20年に東京紡績所の工場が、東大工町（現在の三好）にできたことに始まる。その後明治36年に富士紡績、38年に松井モスリン、40年に東洋モスリン、日清紡績などが創立し、明治44年の工場通鑑によるとこれらの工場は、いずれも職工数1000人以上の大型工場であった。

**精製糖工業**……精製糖工業は幕末から研究されていたが、明治22年に鈴木藤



精製糖工業発祥の碑（北砂5-21）



三郎が砂村に鈴木製糖所を設立し、翌23年初めて製精糖を製造した。その後、明治28年日本精製糖株式会社をそこに設立した。  
これを記念して、「精製糖工業発祥の碑」が、北砂5-21に建てられている。  
製紙工業……日本の製紙工業は、明治7年に広島藩主浅野家が中央区蠣殻町に工場を設けたのに始まる。これが明治39年に株式会社有恒社となり、工場を亀戸に移した。（後の王子製紙亀戸工場）  
製粉業……明治29年に日本製粉、39年に東亜製粉が大島に創立した。

### 3 重工業の発達（産業革命後期）

明治20年代から明治末期にかけて、繊維産業を中心とする軽工業が発達したが、明治末期からは、重化学工業の発展期を迎えた。  
化学肥料工業……江東区における重化学工業は、明治20年、高峰讓吉が渋沢栄一、大倉喜八郎、浅野総一郎、安田善次郎らと共に、大島に東京人造肥料会社を設立したことに始まる。そして、翌21年に過燐酸の製造を開始した。これは、日本における化学肥料工業の始まりでもあり、大島1-2釜屋堀公園に化学肥料創業記念碑が建てられている。  
化学工業……明治40年に日本化学、大正6年に日東化学が創立した。  
鉄鋼業……日露戦争と第1次世界大戦は、鉄鋼・機械を中心とする、重工業の発展をもたらした。江東区では、明治45年に東京鑄鋼所工場が設立されたの

をはじめ、大正5年に東京鋼材（後の三菱鋼材）、大正6年に大島製鋼（後の日曹製鋼）、大正10年には宮製鋼所（後の東都製鋼）などの工場が、相次いで設立された。  
金属・機械工業……明治34年に桜田機械製造所、同40年に横河橋梁製作所、同41年に宮地鉄工所、大正2年に東京亜鉛鍍金、同5年に東京佃島機械製作所（後の日立製作所亀戸工場）、同12年に藤倉電線と高砂鉄工などの工場が区内に創設されている。

### 4 その後の工業

大正12年の関東大震災の後も、重化学工業が江東区へ進出した。しかし、深川地区の工場は、周囲の宅地化、規模の拡大などのために、城東地区・臨海地区への移転が行われた。  
そして、第2次世界大戦へ向かう中で、軍需産業を中心に重化学工業がさらに進展したのであった。この時期に江東区に設立されたおもな工場は、昭和6年の汽車製造、同14年の石川島重工業第二工場、第二精工舎、同16年の東京芝浦電気などであった。

そして江東区は、第2次世界大戦による被害を乗り越えて、工業地帯として発展した。



夢の島埋立処分場（昭和40年頃）



## 江東区とごみ問題

5

ごみの歴史は人類の誕生とともに始まっているが、江東区とごみのかかわりは、江戸時代に江東区の地先がごみ処理場になってから現在に至るまで密接に続いている。

江戸時代、衛生的な問題と美観を損なわないため海面（東京湾）への埋立が始まり、その後、今日までごみの埋立ての歴史は続いている。

昭和に入り、江東区地先が次々とごみの埋立処分場として使用され、江東区民は、悪臭、ハエの大量発生、一日5000台のごみ運搬車による交通渋滞・事故、搬入路へのごみや汚汁の飛散など、ごみ公害によって多大な被害を被ってきたのである。

今日、ごみ問題を抜きにして、環境問題や都市問題は語れない。江東区の「ごみ」との戦いの歴史はさまざまな教訓や成果を残してきた。しかし、「ごみ」との戦いが終わったわけではない。私達はこれまでの取り組みや事実経過等を正しく認識し、そのことを次世代へ継承していくことが最も重要なことと考え、ここに江東区とごみ問題の経過について記述するものである。

### 1 「ごみ戦争」起る

#### 「ごみ戦争」宣言

東京都は昭和39年9月、14号地（夢の島）の埋立処分場の後、15号地埋立処分場（若洲）にごみを埋め立てたいと要請してきた。これに対し、江東区は、都内の清掃工場が完備するであろう昭和45年度まではやむを得ないとして、15号地ごみ埋立処分場の建設を了承した。

ところが、東京都は清掃工場建設が進展しないことを理由に15号地の埋立期間を昭和47年まで延伸、さらに昭和46年8月5日には昭和50年度まで延伸したいと再三にわたる埋立処分場の利用延伸を要請してきた。

これに対し、江東区は、ごみ投棄反対の声明文や公開質問状の採択を行うと同時に「江東区議会ごみ投棄反対対策委員会」を発足させ、区・区議会・住民が一体となって大規模なごみ投棄反対の運動を展開した。

このような背景をもとに東京都知事は、昭和46年9月28日、「今、ごみ戦争を宣言し、徹底的にごみ対策を進めたい」と、ごみと戦う「ごみ戦争」を宣言した。

#### 「自区内処理の原則」と「迷惑負担公平の原則」の確立

江東区はごみ戦争宣言の翌日、東京都知事と22区に対し「ごみ投棄反対に関する公開質問状」を出した。質問状の趣旨は、「自区内処理の原則」と「迷惑負担公平の原則」の実現を求めるものであった。

杉並区からの清掃車をチェック（昭和48年）



さらに、ごみの終末処理を江東区に押し付けている状況を打開するためには、実力行使をもってごみ運搬車を阻止する以外方法はないと考え、実力行使を宣言した。

## 2 ごみ投棄実力阻止を強行

### 1 回目の実力阻止（積み替え基地設置問題）

東京都は昭和47年12月、年末年始のごみ対策として都内8箇所の積み替え基地を計画したが、杉並区和田堀公園の積み替え基地が地元住民の反対で設置できなくなった。

江東区は、この事態を重視して、12月22日15号地入り口で区長並びに区議会議員全員で杉並区からのごみ運搬車を実力で阻止した。この行動は大きな反響を呼び、その結果、杉並区内に積み替え基地の建設が実現するとともに、ごみ問題が都民生活にとって重大かつ身近な問題として取り上げられることとなった。

### 2 回目の実力阻止（杉並清掃工場建設問題）

杉並清掃工場の建設計画は、一部地元住民の反対により工場建設の目的が立っていないかった。東京都は、杉並区と清掃工場建設用地の選定を話し合いによって進めるとし、都区懇談会を中心に調整を図ってきたが、昭和48年5月15日の懇談会は反対派住民の乱入によって流会となった。

このため、江東区は、「東京都の約束不履行と杉並区の地域エゴは断じて許

1 回目の実力阻止



されない」として、杉並区からのごみ搬入を実力で阻止することを決定した。

5月22日午前8時、夢の島及び10号地その2（現在の有明4丁目）の2か所で杉並区からの清掃車をチェックし、搬入を阻止する実力行動に突入した。

都知事は、5月24日、夢の島の実力阻止現場を訪れ「区内処理の原則を実現させるため、何としても杉並清掃工場を建設していくので実力行使を中止してほしい」と懇請し、「建設の目的を9月末までにつけたい」と約束した。江東区は、一歩前進したと判断し、3日間の実力阻止を一時中止した。

### 実力阻止の意義

江東区の実力行動の意義は、杉並清掃工場の建設用地が決定されたことと、ごみ問題に対する都民の深い関心を喚起する導火線となった事実にある。

そしてこの実力行動は、終始、区及び区議会が主体となって展開するとともに、区民のエネルギーと深い理解が世論の支持と協力を生んだものであった。その後、昭和57年12月、杉並清掃工場は、竣工した。

## 3 東京都からの度重なる新たな提案

### 中央防波堤外側埋立処分場の提案と埋立計画

東京都は昭和48年12月、中央防波堤内側埋立処分場後のごみ処分場について、中央防波堤外側と羽田沖の埋立計画を提案してきた。江東区は、引き続きごみ公害等で大きな負担を強いるものとして反対表明をしたが、昭和49年3月、清

事 態 打 開 に 向 け 江 東 区 を 訪 れ た 東 京 都 知 事  
江 東 区 と ご み 問 題



江東区は、新海面処分場の整備にあたって7項目の要望を取りまとめ、東京都が積極的かつ誠意ある取り組みを行い、江東区と十分に協議するよう申し入れた。

平成7年11月、東京都知事は江東区を訪れ、江東区にはできるだけ負担をかけるまいよう最大限努力し、今後とも東京のごみ問題解決のため自ら先頭に立つて取り組む決意を表明した。

**苦渋の決断「大枠で了承」**

区議会清掃港湾特別委員会は、ごみの最終処分場がなければ東京23区800万都民の日常生活に重大な影響を来す、などの大局的な見地に立つて苦渋の決断による「大枠で了承」との意見をまとめ東京都に伝えた。

新海面処分場建設の問題は、このような経緯を経て、江東区と東京都との間に一応の妥結を見た。

これまで江東区は、東京のごみ問題に真剣に取り組み、その解決に向けて最大限の努力を尽くし、最大限の貢献を果たしてきた。江東区は、東京都が清掃工場などの中間処理施設の建設とごみの減量に全力をあげて取り組むという約束を信頼し、ごみの埋立てを了承してきたのである。

現在では、江東区の地先に東京23区部唯一の最終処分場を抱え、かつ、江東区内から出るごみをはるかに超える処理能力を持った都内最大規模の新江東清掃工場と有明清掃工場を有するに至っている。

東京都から提案のあった新たな2つの処分場



掃工場建設を目標年次内に完成すること等の条件付きで同意した。

**新海面処分場建設問題**

東京都は平成元年、「現在使用している中央防波堤外側埋立処分場が平成8年度に満杯になる見込みであり、平成8年度以降の埋立処分場を確保することが、都政の緊急かつ最大の課題である」として、新たに中央防波堤外側埋立処分場の沖合に処分場の建設を計画し提案してきた。

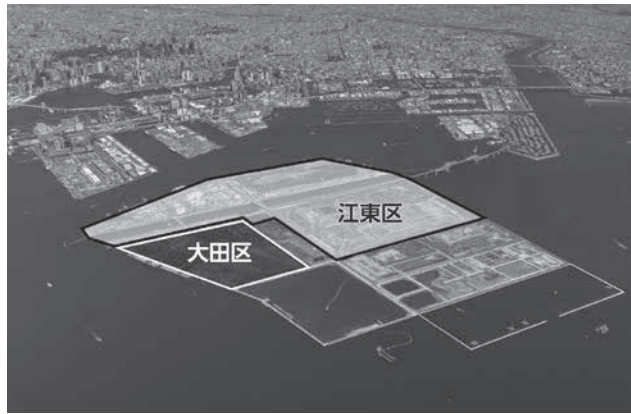
**4 ごみ戦争ふたたび**

江東区は新たな中央防波堤外側埋立処分場の沖合への処分場の建設計画は、20年前に都区合意した「自区内処理」と「迷惑負担公平」の原則を守らず、ごみ問題に対する展望を欠いた計画であるとして、新しい処分場の建設計画には「断固反対」とあるとの姿勢を示した。

平成3年12月、事態打開に向け東京都知事は江東区を訪れ、清掃工場未設置区のうち8区の清掃工場建設実現に努力すること等を表明するとともに、「最終処分場の確保にあたり、総力をあげて取り組む。関係地元区、特に、江東区の区民の皆様方には長い間さまざまにご迷惑をかけており、迷惑を最小限にする決意である」と発言した。

**新海面処分場建設計画に関する申し入れ**

帰属が確定した中央防波堤埋立地



令和2年11月には、10年間を超えた制度の運用に対する見直しが行われ、新たに区内の発生ごみ量と清掃工場のごみ搬入量の割合の差による算定方法の導入と、特別区共通目標として区収集可燃ごみについて、平成20年度比で2割減を目指すことを確認した。特別区は今後、23区のごみ減量とリサイクルの推進について、切磋琢磨を繰り返しながら、施策をすすめることとなった。

区民に還元している。

温暖化対策基金」として、緑化や温暖化対策などの環境施策を推進することで、

平成12年4月、都から特別区への清掃事業移管に対応するため、23区を構成

団体として東京二十三区清掃一部事務組合が設立された。

「清掃負担の公平と「江東区みどり・温暖化対策基金」の創設

田区も判決を受け入れたことにより、約半世紀にわたった帰属問題がようやく終結することとなった。

日量1800トンの焼却能力を持つ  
新江東清掃工場



#### 中央防波堤埋立地の帰属

中央防波堤埋立地は、前述のような、ごみの埋立処分に伴う江東区民の多大な忍耐と犠牲の上に造成されたという歴史的経緯があることから、江東区としては当然、江東区に帰属するものであると主張してきたが、長年にわたり帰属が確定しなかった。

当初、中央区、港区、江東区、品川区、大田区の5区が帰属を主張していたが、平成14年12月に中央区、港区及び品川区が帰属主張を取り下げたことから、以降は、江東区と大田区がその帰属を巡って協議することとなった。

平成28年3月、両区長会談において、東京2020オリンピック・パラリンピック大会開催前の解決に向けて、前向きに協議していくことが合意されたが、同年4月から9回にわたる部課長級協議は平行線を辿り、解決には至らなかった。そのため、平成29年6月に、両区長・議長会談を経て、両区とも合理的な勧告案が示されれば受諾するとの前提で、東京都自治紛争処理委員による調停に委ねる方針が確認され、同年7月、調停を申請した。しかし、同年10月に示された調停案に対し、江東区は受諾したものの、大田区は、これを拒否するとともに、東京地方裁判所に境界確定請求事件を提訴した。

7回の口頭弁論を経て、令和元年9月、江東区の帰属を約8割とする判決が示された。江東区としては、再三主張してきた歴史的経緯が評価されなかったことは遺憾であるものの、司法において判断が示されたことは重く受け止めるべきであること、また、東京2020大会までの解決は大田区との固い約束であったことから、大局的な見地から判決を受け入れることとした。その後、大

都住宅供給公社南砂住宅  
江東区の集合住宅



## 江東区の集合住宅

6

### 1 江東区の宅地化

徳川家康の江戸入府以来、東京は政治・経済などあらゆる分野で日本の中心として発展してきた。東京（江戸）の発展は、人口の流入を招き、市街地が遠心的に拡大した。江東区の土地も、このような人口流入により、都心に近い方から次第に宅地化していった。

### 2 集合住宅の始まり

明治時代に入り、各種工業の発展に伴い、多くの労働者が東京に流入した。明治41年から大正9年までの間に、東京市に約55万人の人口増があった。このような人口増は、住宅不足を招き、それに対処するため、東京市営住宅の建設が始まった。江東区でも、大正12年に鉄筋コンクリート3階建の市営住宅が古石場に建設された。

また、古石場住宅の完成直後、関東大震災が起こり、多くの住宅が被害を受けた。そこで政府は、救援義捐金きんを基金として、翌13年に住宅建設事業の推進

を図る財団法人同潤会を発足させた。これにより、住宅建設は東京市と同潤会の2本立てとなった。戦前において区内に建てられた公営住宅は、市営が清澄庭園店舗住宅（昭和2年建設）など755戸、同潤会が清砂通りアパート（昭和2～4年建設）、猿江共同住宅（昭和2～5年建設）など1577戸であった。

### 3 不燃中高層住宅の始まり

第2次世界大戦は、大きな被害を江東区に与えたが、疎開者の帰京、戦地からの復員、引き揚げなどで人口は増加していった。このような状況の中で都は、都営住宅の建設を進め、昭和20年代に区内に51団地2671戸の都営住宅を建設した。

昭和30年代になると、日本住宅公団が発足し、鉄筋コンクリートによる中高層住宅の建設が始まった。30年代に区内に建設された集合住宅は、都営住宅が5団地528戸、公団住宅が5団地916戸であった。

### 4 工場から住宅へ（大規模高層住宅の建設）

昭和40年代に入り、区内の大規模工場の転出が起こる。その原因としては、次のようなものがあげられる。

都営辰巳団地





①昭和34年に制定された「首都圏の既成市街地における工業等の制限に関する法律」により、工場の新增設が制限され、新たな設備投資意欲の後退を招いた。

②昭和42年の「公害対策基本法」、44年の「東京都公害防止条例」により、公害を減らすために大きな企業負担が必要となった。

そして、この企業が移転した跡地は、公共用地になったものもあるが、その大部分が集合住宅用地になった。大島4丁目公団、大島6丁目公団、南砂2丁目公団、北砂5丁目公団住宅など区内の大規模集合住宅の多くは、企業跡地に建てられたものである。（表1参照）

また、昭和40年代における区内集合住宅建設の特徴としては、都営辰巳一丁目アパート（昭和42～44年建設）、都営東雲二丁目アパート（昭和44・45年建設）など、港湾埋立地での建設が進められたことがあげられる。そして、昭和40年代後半から民間マンションの進出が目立ち始め、昭和52年以降は、建設計画戸数に占める民間マンションの割合が80%を超えている。

このような、集中する集合住宅建設に対し、公共施設整備、防災対策及び無秩序な開発防止の観点から、昭和48年4月「開発行為及び中高層建築物の建設等に関する指導要綱」を定め、事業者に対して必要な行政指導を行った。

また、この集合住宅化傾向の中で「住みよい江東区」づくりを進めるため、昭和53年8月に集合住宅居住者意識調査、同55年10月に集合住宅周辺居住者意

識調査、平成14年3月、平成21年3月、平成27年3月および令和4年3月にマンション実態調査を行い、区民の要望の把握に努めている。

## 5 急増するマンション

江東区では、都心に近い割に比較的地価が安く未利用地が多い、などの理由からマンション建設が急増し、平成9年1月から平成14年1月までの5年間で、人口が約2万6千人増加した。

このまま急増するマンション建設計画を容認すれば、学校などの公共施設への受け入れや地域コミュニティの形成に支障を来すと懸念されることから、江東区では、平成13年9月に「江東区マンション急増対策本部」を設置した。平成14年4月には、学校等への受け入れが困難な地域を指定し、その地域での建設中止または延期の協力を求めるとともに、住宅戸数30戸以上につき1戸あたり125万円の公共施設整備協力を求める新たな「マンション等建設指導要綱」を制定した。

しかし、マンション急増による人口の増加は予断を許さない状況であり、こどもの教育環境を守る立場から江東区の姿勢をより明確にするため、「マンション建設計画の調整に関する条例」を平成16年1月に施行した。この条例は4年間の時限つきで、①建設事業の届出の義務付け ②公共公益施設への受入困難地区の指定 ③協力に応じない事業者への勧告・公表、等を定めた。

表1 おもな企業跡地の集合住宅化 (10,000㎡ 500戸以上)

年次	所在地	旧立地企業等	面積 (㎡)	建設主体	戸数
昭41	大島4	日曹製鋼大島工場	87,207.00	日本住宅公団	2,514
41	亀戸2	日清紡績亀戸工場	43,000.00	日本住宅公団	1,426
43	大島6	三菱製鋼大島第1工場	97,744.00	日本住宅公団	2,892
43	東砂2	桜田機械	52,614.00	東京都	1,487
43	南砂5	大林組東京製作所	29,083.00	東京都	716
44	北砂4	東京製塩	10,484.00	都住宅供給公社	526
45	大島7	昭和石油瓦斯	12,187.00	日本住宅公団	520
46	南砂2	汽車製造東京工場	163,939.00	都住宅供給公社	3,839
47	北砂5	東京芝浦電気砂町工場	92,675.00	日本住宅公団	2,781
		東芝モノフラックス	37,368.00		
50	豊洲4	熊谷組	33,000.00	日本住宅公団	827
53	亀戸9	興国鋼線索	18,580.00	都・都公社	552
54	東陽2	横河橋梁製作所	41,064.00	民間	777
		鹿島製作所資材置場			
		竹中工務店資材置場			
57	白河4	入丸倉庫	21,271.00	民間	673
59	大島9	手塚興産	11,646.00	民間	546
平11	東砂4	鹿島建設(株)材料置場	16,065.57	民間	583
12	東雲1	三菱鉄鋼	163,957.00	都市基盤整備公団・民間	約6,000
13	塩浜1	食糧庁倉庫	38,940.31	民間	989
16	豊洲2	石川島播磨重工業	28,900.05	民間	1,476
16	豊洲4	日新製糖	27,989.74	民間	981
17	豊洲1	石川島播磨重工業	15,833.50	民間	744
18	豊洲3	石川島播磨重工業	16,396.58	民間	825
18	北砂2	日本貨物鉄道	15,616.97	民間	526
18	豊洲3	石川島播磨重工業	13,826.52	民間	1,063
18	亀戸9	田原製作所	20,123.00	民間	700
18	有明1	佐川急便	19,646.77	民間	1,080
		アベキ CAPITAL 日商エレクトロニクス			
19	豊洲3	石川島播磨重工業	16,571.59	民間	850
19	有明1	佐川急便	18,273.74	民間	1,089
		フェデラルエクスプレス アクティオ東雲			
23	豊洲6	東京電力	21,242.52	民間	1,110
24	豊洲6	東京電力	11,094.98	民間	550
25	東陽2	明治安田生命保険相互会社	12,742.81	民間	522
26	豊洲5	東京電力	10,591.10	民間	690
		東京瓦斯			
		東京ガス都市開発			
		東京ガスオートサービス			
30	豊洲5	東京ガス用地開発	18,152.97	民間	1,152
31	亀戸6	第二精工舎	22,989.26	民間	934

(令和7年9月末現在、年次は計画決定時)

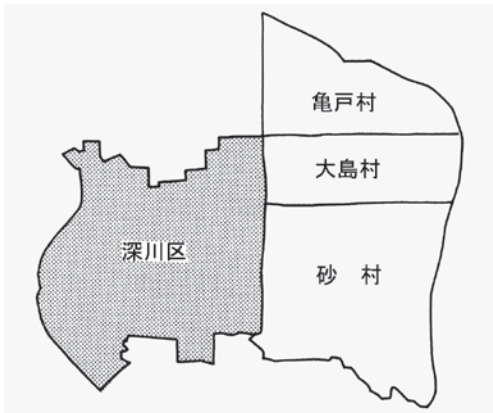


その後平成19年12月に期限が到来する「マンション建設計画の調整に関する条例」について、マンション建設戸数予測や、公共公益施設の受け入れへの影響などを推計したところ、適切な施設整備の実施が前提ではあるものの、受入困難地区の指定が柱となる条例を継続する必要性が少なく判断し、廃止することとした。

しかしながら、引き続き公共公益施設への受け入れ体制が万全な状況とはいえず、またその施設整備状況や受け入れ体制と建設計画との調整を行うことは、計画的な施設整備やまちづくりの観点から非常に重要であるため、「マンション建設計画の事前届出等に関する条例」を平成20年1月1日に施行した。この条例も4年3ヶ月の時限つきで、①建設事業の届出の義務付け ②公共公益施設の整備への協力 ③建設事業の延期・入居時期の変更 ④協力に応じない事業者への勧告・公表、等を定めている。

平成24年3月、この条例の期限を迎えたが、本区における学校や保育所等の公共公益施設の整備状況とマンション建設計画との調整を図ることが依然として重要であることに変わりはなく、「マンション建設計画の事前届出等に関する条例」の継続が不可欠と判断し有効期限を廃止している。

市制・町村制時代の江東区域（明治22年頃）  
自治体・江東区のあゆみ



## 2 15区6郡時代

大区小区時代の職制……明治4年11月に、中年寄・添年寄を廃止し、小区ごとに戸長・副長を置いた。また、明治5年3月に現在の区長の前身「大区御用掛」を置いた。さらに大区御用掛は、同年6月に戸長世話掛となり、6年12月に区長となった。第6大区の初代御用掛は、村松為溪であった。

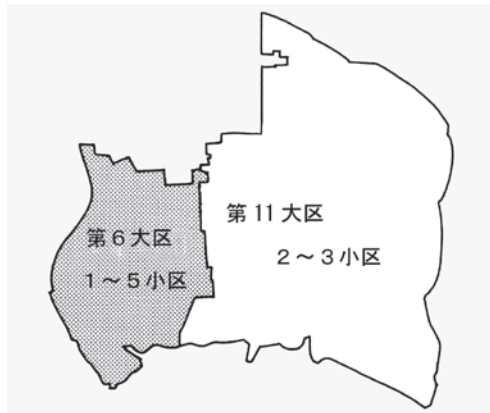
15区6郡の誕生……明治11年7月、郡区町村編制法、府県会規則、地方税規則が公布され、地方制度が始まった。この結果、11月に東京府の大区小区は廃止され、新たに15区6郡が定められた。ここで深川地区は深川区となり、初代区長に大木良房が任命された。また、城東地区は南葛飾郡に編入された。

15区6郡の職制……各区・郡には、区・郡役所が置かれ、官選の区・郡長が任命された。区長・郡長の権限は、租税徴収、徴兵調査、戸籍事務、小学校関係事務等で、区・郡は法人格はないが自治区の性格を持ちはじめた。

区会の始まり（明治12年1月）……府下15区会規則と6郡町村会規則が定められ、地方議会が誕生した。この時期の区・町村会の権限は、区・町村内の事業の企画・廃止、予算の作成・施行、共有財産の維持・運用などであった。

東京市の成立（明治22年4月）……市制・町村制が施行され、5月に東京市が誕生、従来の15区は市域の一部となった。しかし、東京・大阪・京都の3市

大区小区時代の江東区域（明治10年頃）



# 自治体・江東区のあゆみ

## 1 明治維新期の町政

江戸時代の江戸の町政……江戸時代に、江戸の町を支配していたのは、町奉行であり、現在の市長にあたる町年寄とそもとにいる町名主が町を支配していた。

明治の番組制度……明治維新が起こり、江戸が東京府になった。明治2年2月に、市街地を朱引内、郷村地を朱引外として東京の範囲を決定した。そして朱引内を50番組にわけ、各区に中年寄・添年寄を府が任命し、町の行政を行った。そして3月、深川の地域が46〜49番組に属することとなった。

さらに5月に朱引外に地方5番組をつくり、朱引内と同じ組織とし、城東地区と深川地区の一部が朱引外5番組へ編入された。

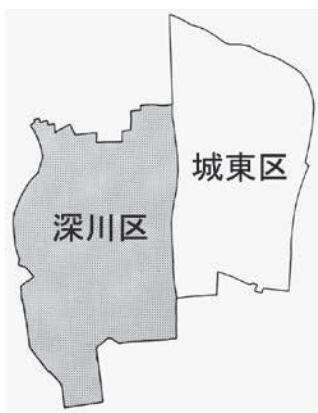
この時期の役所にあたるものは、事務取扱所と呼ばれていた。

6大区の成立……明治4年11月に、東京府内の朱引内外をまとめ、6大区とする区画改正を行い、現在の江東区は第6大区に属した。

その後明治6年3月に再び朱引を定め、朱引内6大区、朱引外5大区とし、江東区は第6大区1〜5小区・第11大区2〜3小区に属することとなった。



35区制時代の江東区域（昭和16年頃）



は「市制特例」によって独立の権限が与えられず、東京は国の監督下に置かれたままとなった。15区の性格は、行政区であり、財産区としてのみ法人格が認められるというものであった。

また、市制とともに府下の6郡には町村制が施行され、明治22年6月、城東地区は亀戸村、大島村、砂村となった。そして亀戸・大島は明治33年7月に、砂村は大正10年7月に町制が施行され、それぞれ亀戸町、大島町、砂町となったのである。

法人区への改正（明治44年10月）……市制改正により、区は法人格を有し、自治区的性格を持つに至った。この時期の区の事務は、その財産营造物に関する事務と国・府・市から委任された戸籍、義務教育、兵事、国税、市税等の徴収などであった。また、区長は市長が任命し、その命令に従うことと定められた。区会は、選挙、監査、意見書提出等一部に権限を持つようになったが、自治立法権、起債権は与えられなかった。

### 3 35区制の時代

市域編入と35区の成立（昭和7年10月）……三多摩地方を除く5郡を東京市に編入し、旧15区に加えて新たに20区が誕生し、35区となった。この際、亀戸町、大島町、砂町が合併して城東区となり、東京市に編入された。

都制の制定（昭和18年7月）……戦時体制の強化により、区の自治権は次第に失われていき、昭和18年7月の都制施行により、区の自治権はさらに縮小された。区は法人格を有し、官の監督を受け、財産及び营造物に関する事務ならびに都条例により区に属する事務を処理し、課税権・起債権及び独立の立法権を持たない簡素な自治区とされた。区長は官吏であり、区会は必置機関とされたが、その職務権限は制限列挙された。

### 4 江東区の誕生

地方制度の改革（昭和21年9月）……都制改革により、区に対する法令による事務委任が認められ、区長公選、課税権、起債権、区会の条例制定権等が与えられるなど、区の自治権は飛躍的に向上した。

江東区の誕生（昭和22年3月）……区の区画の整理統合が行われ、深川区と城東区が合併することとなり、2月21日に城東区会、2月25日に深川区会の議決を経て区名を江東区とし、3月15日に発足した。（22区の誕生）

特別区の誕生（昭和22年5月）……地方自治法施行により、東京の区は、特別地方公共団体たる特別区となった。すなわち区は、一部を除いて原則的に市に準じた基礎的自治体となったのである。

自治権の後退（昭和27年）……地方自治法の改正で、特別区の自治権は制限

## 歴代江東区長

	氏名	在任期間
初代	二瓶 哲治	昭和22年4月23日～昭和39年12月9日
2代	伊藤 和助	昭和40年3月10日～昭和42年11月30日
3代	小松崎軍次	昭和43年3月9日～平成3年4月26日
4代	室橋 昭	平成3年4月27日～平成19年4月26日
5代	山崎 孝明	平成19年4月27日～令和5年4月12日
6代	—	
7代	大久保朋果	令和5年12月10日～現在



区の紋章（昭和26年12月21日制定）

されることとなった。区長の公選制の廃止をはじめ、区の事務の列挙法定化、都区間の事務・財源の配分が明確化され、都区財調による都知事の助言勧告権が明示されるなど、区は都の内部的構成団体としての性格が強められたのであった。

**自治権の拡充**（昭和39年7月）……昭和27年に自治権を制限されたものの特別区の自治権拡充への意欲は強く、39年7月に再び区の機能を拡大する改正が行われ、40年4月から施行された。この時の改正の内容は、社会福祉・保健衛生事業・建築基準行政等の事務移管、区の自主財政権の強化、都区財源配分・都区財調の合理化、都区間及び区相互間の連絡調整の促進などであった。さらに昭和49年6月の地方自治法改正で、区長公選制の復活、保健所等の事務移管、都の職員に区の事務をさせる配属職員制度の廃止などが実現した。その後も勤労福祉会館、内職補導所、授産場、児童学園などが順次移管されている。

しかし、この改革においても特別区は法律上「特別地方公共団体」のままとされるなど、その基本的性格は改められず、財政制度などにおいても特別区を都の「内部的構成団体」として位置づける制度的枠組は変わらず、将来の課題として残された。

**具体化した特別区制度改革**（昭和56年以降）……このような課題を解決する方策として、まず、昭和56年8月、特別区政調査会によって「『特例』市構想」

が答申され、区長会はこの答申を基に制度改革の検討を進め、また各区議会も自治権拡充大会やシンポジウムを開くなど独自の取り組みをしてきた。そして59年6月、都制度調査会から「新しい都制度のあり方」が答申されたのを機に、同年7月「都区制度検討委員会」が設置され、二つの答申を踏まえた本格的都区協議が開始された。60年5月、区長会・議長会合同会議において「特別区制度改革の基本的方向」が確認されたことにより区側の基本的意思統一がなされ、その後も都区協議が続けられた結果、61年2月、「都区制度改革の基本的方向」が都区で合意されるに至った。

その主な内容は、  
①特別区の性格を一般の市と同様に自立した基礎的自治体とし、普通地方公共団体に改める。

②ごみの収集・運搬等区民に身近な事務事業を移管する。

③都区の財源配分を明確かつ安定的なものとし、現行都区財政調整制度の都区間調整を廃止する。

④特別区の自主性を確保した新たな23区相互間の財政調整制度を確立する。

⑤地方交付税を都区分離・23区一括適用する。―などである。

こうした都区制度改革をめぐる特別区と東京都の長い運動の結果、平成2年9月に第22次地方制度調査会から内閣総理大臣に「都区制度の改革に関する答申」が提出され、運動は大きく前進した。

7 事項編

自治体・江東区のあゆみ

「国勢調査」による江東区の人口及び世帯数  
(大正9年～令和2年)

年次	人口(総数)	世帯数
第1回 大正9年	254,324	55,935
第2回 大正14年	273,384	62,250
第3回 昭和5年	319,786	69,543
第4回 昭和10年	385,222	79,610
第5回 昭和15年	419,154	88,295
第6回 昭和22年	96,870	23,838
第7回 昭和25年	182,489	41,961
第8回 昭和30年	277,971	59,254
第9回 昭和35年	351,053	83,590
第10回 昭和40年	359,672	92,843
第11回 昭和45年	355,835	102,423
第12回 昭和50年	355,382	111,579
第13回 昭和55年	362,270	129,039
第14回 昭和60年	388,927	141,190
第15回 平成2年	385,159	147,772
第16回 平成7年	365,604	147,495
第17回 平成12年	376,840	162,240
第18回 平成17年	420,845	189,108
第19回 平成22年	460,819	214,424
第20回 平成27年	498,109	243,708
第21回 令和2年	524,310	264,278

資料：総務省統計局 令和2年「国勢調査報告」

- ※平成14年8月、江東区の人口が40万人を突破
- ※平成20年3月、江東区の人口が45万人を突破
- ※平成27年6月、江東区の人口が50万人を突破

世帯と人口		令和8年1月1日
世帯		297,147世帯
人口		543,193人
住民基本台帳人口	男	266,318人
	女	276,875人
外国人住民数	男	20,235人(内数)
	女	21,152人(内数)

※平成24年7月9日から外国人も住民基本台帳法の適用となったため外国人を含む

戦後50余年、区民、区議会、区が連携して「自治権の拡充」を目指して運動を続けてきた成果である。江東区は名実ともに「基礎的な地方公共団体」として新たなスタートを切ったのである。

平成6年5月、都は、清掃事業の区移管について、これまでの収集・運搬までの移管から処理・処分までも含めたすべての清掃事業を区に移管する実施案を特別区に提示した。

そして平成6年8月に、都は、「都区制度改革に関するまとめ(協議案)」を特別区に提示した。この協議案では、清掃事業等の区移管時期を平成12年4月とした。

また、法令改正による事務事業は5項目となり、政令指定都市の事務は委任による対応となるなど昭和61年の都区合意よりやや後退した内容であったが、特別区は、この機を逸するわけにはいかないと判断し、平成6年9月にこの都案を基本的に了承した。

同年12月、都と職員労働組合を含めた関係者は、清掃事業の区移管について合意に達した。この合意後、都及び特別区の代表は法改正について自治省に要請し正式に受理された。

**特別区制度改革の実現**(平成12年4月)……平成10年2月、東京都は特別区と確認の後、「清掃事業の特別区への移管にあたって」をまとめ、厚生省に提出。同年4月「地方自治法等の一部を改正する法律案」が衆・参両院で可決され、特別区は地方自治法上の基礎的な自治体として明確に位置づけられた。

それを受け、都区間において実務的な協議、調整を積み重ね、平成12年4月から清掃事業をはじめとする38の事務事業移管が実現した。

# 江戸時代以前

1

年代	できごと
縄文時代	亀戸北部に近い墨田区吾嬬神社から、縄文時代後期とみられる土器が発見されている
弥生時代	天祖神社（入神明・亀戸3）から、弥生式土埴（漁網に使う土製のおもり）が出土している（香取神社に現存）。石井神社（亀戸4）は、石器時代の石棒を祀った神社であると伝えられている ※以上のことから、亀戸地区は古くから土地が生成し、人が住んでいたものと思われる
古墳時代	天祖神社、浅間神社（亀戸9）は、古墳の上に建てられた神社であると伝えられている
天智天皇4年（665） 天應元年（781）	香取神社（亀戸3）を藤原鎌足が創立（伝） 光明寺（亀戸3）を慈覚が創立（伝・慈宏が弘治元年（1555）に創立との説もある）
康平元年（1058）	猿江神社（猿江2）創立（伝）



弥生式土埴

天永3年（1112）	香取神社再建（伝・一説に天永2年）
嘉元元年（1303）	宝蓮寺（亀戸4）を俊鑑が創立（伝）
元亨4年（1324）	心行寺（深川2）に現存の区内最古の五重石塔造立
應永2年（1395）	龍眼寺（萩寺・亀戸3）を良博が創立（伝）
應永28年（1421）	普門院（亀戸3）に区内最古の石燈籠造立
永享7年（1435）	自性院（亀戸6）の宝篋院塔造立
文明元年（1469）	長寿寺（亀戸3）を川叟宗勤が開山（伝）
大永7年（1527）	浅間神社（亀戸9）創立（伝）
享祿4年（1531）	東覚寺（亀戸4）を玄学が創立（伝）
享祿5年（1532）	水神社（亀戸4）創立（伝）
（天正年間）	小名木川開さく（小名木川四郎兵衛によるとの説もある）
天正18年（1590）	江戸城が開城され徳川家康が入城する
慶長元年（1596）	重願寺（猿江1）創立
	深川神明宮（森下1）を深川八郎右衛門が創立
	深川八郎右衛門が新田を開発
	深川八郎右衛門が開発した新田を深川村と称す（現在の森下・常盤・新大橋・猿江・住吉辺り）
	野口次郎左衛門が海辺新田を開発（現在の清澄・白河・扇橋辺り）

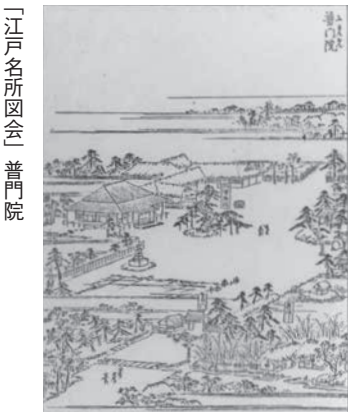
## ① 年表編

江戸時代以前  
「江戸名所図会」天祖神社（入神明）



# 江戸時代

2



「江戸名所図会」 普門院

年 代	で き こ と
慶長8年(1603)	徳川家康が江戸幕府を開く
慶長16年(1611)	宝塔寺(大島8)創立
元和元年(1615)	官船大竜丸を深川御船蔵(新大橋付近)に回航
元和2年(1616)	普門院が台東区から亀戸に移転
元和7年(1621)	雄松院(白河1)創立
元和9年(1623)	本誓寺(清澄3)の宝篋印石塔(呂一官墓)造立
寛永元年(1624)	長盛法師が永代島に富岡八幡宮を祀る
	亀高稲荷神社(北砂4)、志演神社(北砂2)、長専院(三好1)、成等院(三好1)創立
寛永4年(1627)	富岡八幡宮再建
寛永6年(1629)	深川狐師町(現在の永代・佐賀・福住辺り)埋立て
寛永10年(1633)	法乗院(深川閻魔・深川2)、正覚寺(深川2)創立
寛永14年(1637)	幕府の巨艦安宅丸を伊豆から深川御船蔵へ回航 雲光院(三好2)開基阿茶局死去。墓碑現存

## ② 年表編

令和5年の深川八幡まつり  
江戸時代



寛永18年(1641)	陽岳寺(深川2)を文宝祖郁が創立 江戸大火。府内の材木置場が大火の一因となったため、府内の材木問屋に材木置場と揚場屋敷を永代島(佐賀・永代・福住辺り)に与える(元木場)
寛永20年(1643)	霊巖寺(白河1)開基雄誉霊巖死去。墓碑現存
(寛永年間)	幕府御船方向井将監忠勝死去。陽岳寺に墓所現存
慶安元年(1648)	富岡八幡宮の祭礼許可される
慶安3年(1650)	仙台堀川開削
明暦元年(1655)	宝塔寺(大島8)、勝智院(大島5)創立
明暦2年(1656)	志演神社(北砂2)に織田長好が石燈籠一對を奉納(現存)
明暦3年(1657)	江戸のごみを永代浦に捨てることの触れが出る 深川八幡門前仲町の料理茶屋の営業許可
	浄心寺(平野2)開基三沢局死去。墓碑現存
	明暦の大火。江戸の焼死者約10万7000人
	加賀城主前田侯が深川黒江町(永代・福住付近)に米蔵を建てる
	霊巖寺が中央区霊巖島から深川海辺新田(白河1)に移転
万治元年(1658)	浄心寺(平野)創立

江戸時代  
「深川芭蕉庵」中村不折画



天和3年(1683)	貞享元年(1684)	貞享4年(1687)	貞享2年(1689)	元禄4年(1691)	元禄5年(1692)	元禄6年(1693)	元禄7年(1694)	元禄8年(1695)	元禄11年(1698)			
江戸大火(八百屋お七の火事)。靈巖寺、富岡八幡宮、深川芭蕉庵など焼失 雲光院が神田岩井町から三好2に移転 深川芭蕉庵再建	富岡八幡宮境内で相撲興行始まる(江戸大相撲の始まり)	松尾芭蕉が「野ざらし紀行」の旅に出発	松尾芭蕉が「鹿島詣」「笈の小文」の旅に出発	松尾芭蕉が深川芭蕉庵から門人杉山杉風の別邸探茶庵(深川1付近)に移住。ここから門人曾良とともに「奥の細道」の旅に出発	西普蓮人法師が持宝院(北砂4)で入定(碑現存)	芭蕉庵を再々建	新大橋初めて架橋	龍眼寺に元珍が126種の萩を植え、萩の名所となる	松尾芭蕉大坂で死去。大津の義仲寺に葬られる	羅漢寺(五百羅漢・もと大島、現目黒区)を松雲が創立	永代橋を関東郡代伊奈忠順が初めて架橋	元加賀新田(現在の三好辺り)、十五万坪(現在の木場・

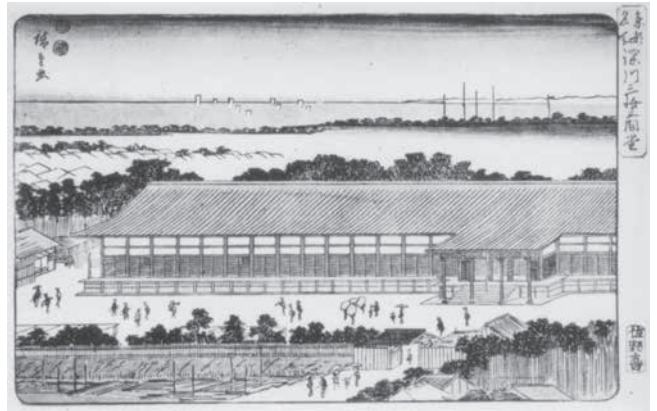
「亀戸天神」葛飾北斎画



天和2年(1682)	天和元年(1681)	延宝8年(1680)	寛文12年(1672)	寛文8年(1668)	寛文5年(1665)	寛文4年(1664)	寛文2年(1662)	寛文元年(1661)	万治3年(1660)	万治2年(1659)											
深川御船蔵の安宅丸をとりこわす	ごみ捨場を永代島新田と砂村新田に定める	松尾芭蕉が深川芭蕉庵(常盤付近)に移住	寛永通宝を亀戸鋳銭場(亀戸2)で鋳造	江戸市のごみ捨場を永代島付近に定め、そこ以外にごみを捨てないように、触れが出る	太閤兵衛新田(現在の東砂辺り)の開拓者太郎兵衛死去。墓所現存(東砂3)	愛宕神社(亀出神社・大島3)創立	松尾芭蕉が深川芭蕉庵(常盤付近)に移住	砂村新田(現在の南砂)を開設	本所築立奉行徳山五兵衛、山崎四郎左衛門が堅川、大横川、横十間川を開削	深川村開拓者深川八郎右衛門死去し、泉養寺(当時猿江、現市川市)に葬られる。墓所現存	小名木川の船改番所を万年橋から中川口に移す	亀戸天神社(亀戸3)創立	志演神社に区内最古の力石奉納される(現存)	富賀岡八幡宮(南砂7)の社殿完成	寛永通宝を亀戸鋳銭場(亀戸2)で鋳造	江戸市のごみ捨場を永代島付近に定め、そこ以外にごみを捨てないように、触れが出る	太閤兵衛新田(現在の東砂辺り)の開拓者太郎兵衛死去。墓所現存(東砂3)	愛宕神社(亀出神社・大島3)創立	松尾芭蕉が深川芭蕉庵(常盤付近)に移住	ごみ捨場を永代島新田と砂村新田に定める	深川御船蔵の安宅丸をとりこわす

享保 年 間	事 件
享保4年(1719)	四代市村竹之丞死去。自じよ院に葬られる。墓碑現存
享保5年(1720)	深川が町奉行の支配となる
享保9年(1724)	地藏坊正元が永代寺に江戸六地藏の1体を造立(滅失)
享保10年(1725)	江戸のごみを本所猿江御材木蔵跡入堀(猿江・毛利辺り)に捨てる触れが出る
享保11年(1726)	江戸のごみを六万坪に捨てる触れが出る
享保15年(1730)	俳人度会園女死去。雄松院(白河1)に葬られる。墓碑現存
(享 保 年 間)	越中島をこみ捨て場とする触れが出る
寛保3年(1743)	深川和倉町(深川2・冬木辺り)に干鯛荷揚場を設ける(江川場)
宝暦元年(1751)	十万坪(現在の千田・千石・扇橋辺り)、毛利新田(現在の毛利辺り)開拓
宝暦2年(1752)	臨川寺(清澄3)に芭蕉由緒塚、墨直しの碑造立
宝暦8年(1758)	初代坂東彦三郎死去。浄心寺(平野2)に葬られる。墓碑現存 歌人油谷倭文字死去。常照院(清澄3)に葬られる。墓碑現存 関東郡代伊奈忠宥が富岡八幡宮に石燈籠を奉納

東都名所「深川三十三間堂」歌川広重画



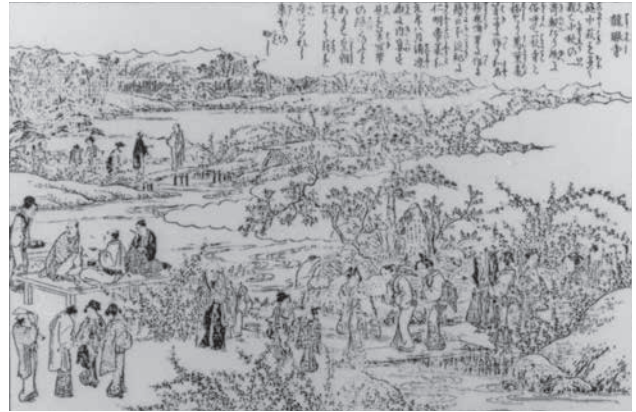
(元 禄 年 間)	事 件
元禄12年(1699)	平野辺り)埋立て
元禄13年(1700)	深川木置場(元木場)が御用地となり、幕府材木蔵が猿江に移転
元禄14年(1701)	海辺新田(白河1付近)に干鯛荷揚場を移転(銚子場)
元禄15年(1702)	深川三十三間堂(富岡2付近)完成(滅失)
(元 禄 年 間)	材木置場が猿江から深川築地(木場・平野1帯)に移転
宝永7年(1710)	永代町に干鯛荷揚場を設ける(永代場)
享保2年(1717)	赤穂浪士が吉良邸に討入り。一ツ目通りを通り、乳熊屋(佐賀1)で休息の後、永代橋を渡って泉岳寺(港区)へ
享保3年(1718)	平井新田、六万坪、石小田新田(現在の東陽辺り)、大塚新田、久左衛門新田、治兵衛新田(現在の北砂辺り)埋立て
	六万坪(現在の東陽6辺り)の一部埋立て
	深川地藏坊正元が霊巖寺に江戸六地藏の1体を造立(現存)
	紀伊国屋文左衛門死去。成等院(三好1)に葬られる。墓碑現存

横綱阿武松緑之助



36 六代横綱阿武松緑之助

「江戸」名所図会 龍眼寺



文化10年(1813)	狂歌師手柄岡持死去。一乗院(平野2)に葬られる。墓碑現存
文政元年(1818)	黒江町(門前仲町辺り)に住んだことのある伊能忠敬死去
文政3年(1820)	亀戸天神のうそ替え神事始まる
文政8年(1825)	清元節の創始者初代清元延寿太夫が暗殺され、浄心寺(平野)に葬られる。墓碑現存
文政12年(1829)	松平定信(楽翁)死去。靈巖寺に葬られる。墓碑現存
天保元年(1830)	四世鶴屋南北が黒船稲荷神社(牡丹1)で死去
天保4年(1833)	画家観嵩月死去。陽岳寺に葬られる。墓碑現存
天保15年(1844)	富賀岡八幡宮に富士塚できる
嘉永4年(1851)	探検家間宮林蔵死去。本立院(平野1)に葬られる。墓所(平野2)現存
安政元年(1854)	横綱阿武松緑之助死去。玉泉院(三好1)に葬られる。墓碑現存
	浮世絵師歌川豊国歴代の墓を光明寺に建立

明和5年(1768)	龍眼寺に、其日庵三世溝口素丸が「ぬれて行 人もおかしや雨の萩 芭蕉」の句碑を建立(現存)
安永3年(1774)	初代伊勢ノ海死去。万徳院(永代2)に葬られる。墓碑現存
天明元年(1781)	塩原太助が亀戸天神に石燈籠を奉納(一部現存)
天明2年(1782)	書家三井親和死去。増林寺(深川2)に葬られる。墓碑現存
天明7年(1787)	釈迦嶽雲右衛門の等身大の碑を、その弟子真鶴崎右衛門が富岡八幡宮境内に造立
寛政2年(1790)	画家桜井雪館死去。勢至院(三好1)に葬られる。墓所現存
寛政6年(1794)	画家狩野永徳死去。浄心寺(平野)に葬られる。墓所現存
文化4年(1807)	波除碑(牡丹3、木場6)建立(一部現存)
文化6年(1809)	富岡八幡宮祭礼で永代橋が落橋、死者多数
文化8年(1811)	「め組の喧嘩」の力士四つ車大八死去。因速寺(東砂1)に葬られる。墓碑現存
	国学者村田春海死去。本誓寺に葬られる。墓碑現存
	狂歌師元空網死去。正覚寺(深川2)に葬られる。墓

# 明治と昭和20年

3

年 代	で き こ と
慶応4年 明治元年(1868)	9月8日明治改元(新暦10月23日)、一世一元制定 明治維新 江戸が東京となる 東京府成立 太郎兵衛新田、砂村新田、荻新田、石小田新田、小名木村、亀戸村、大島村、亀高村、猿江村、深川町、狛師町などが東京府へ移管
明治2年(1869)	東京の市街地を朱引内50番組として、深川の地域は46番組(一部)47・48・49番組となる 市街地を6大区とし、深川地区の大部分は第6大区に属する
明治3年(1870)	清水誠がフランスから帰国し、新燧社をおこしマッチ製造を開始。マッチの碑が亀戸天神に現存
明治4年(1871)	府内を6大区とし、各大区に16の小区を設ける。深川区は6大区1・5・13・16小区になる



## ③ 年表編

「新撰東京名所図会」明治時代の小名木川  
明治と昭和20年

明治5年(1872)	深川三十三間堂とりこわし 11月9日太陽暦採用(12月3日実施)
明治6年(1873)	火葬禁止令布告(7月18日) 深川富岡八幡宮外4か所が東京府最初の公園として開園(深川公園)
明治8年(1875)	第6中学区三番小学校(後の明治小学校)開校 工部省深川工場(清澄)で、日本で初めてセメント製造開始。碑現存(清澄1)
明治9年(1876)	三菱商船学校(後の国立東京商船大学、現東京海洋大学)創立
明治9年(1876)	東京警視庁第六方面第一署を門前仲町に、第二署を東森下町(森下2)に設置
明治11年(1878)	火葬禁止令解除(5月23日) 第6中学区十九番小学亀戸学校開校
明治12年(1879)	郡区町村編制法により、15区の一つとして深川区が誕生。初代区長に大木良房。また、亀戸、大島、砂村は、南葛飾郡に編入された。 都内最古の鉄橋八幡橋(富岡1)が中央区に架橋 深川区会議員30人を選任

③ 年表編

清澄庭園  
明治、昭和20年



明治32年 (1899)	深川地区に改良水道ひかれる 暴風雨。深川の浸水家屋約5500戸 亀戸村、大島村に町制施行
明治33年 (1900)	深川郵便局が深川入船町(木場2)に開業
明治35年 (1902)	暴風雨。深川区内の床上浸水617戸、床下浸水6506戸
明治36年 (1903)	富士瓦斯紡績創立
明治37年 (1904)	国文学者落合直文死去。龍眼寺に歌碑現存
明治38年 (1905)	総武線亀戸駅開業
明治39年 (1906)	東京市街鉄道(株)より、茅場町〜黒江町(永代)間に路面電車開通
明治40年 (1907)	松井モスリン製造所設立
明治41年 (1908)	製紙会社有恒社設立。亀戸に工場を設置 亀戸に東洋モスリン(株)、日清紡績(株)設立 亀戸に日本化学工業(株)設立
明治42年 (1909)	画家橋本雅邦死去。玉泉院に葬られる。墓碑現存 中村高等女学校創立 市立深川図書館が深川公園内に開館 三菱別邸(現清澄庭園)内に涼亭を新築

化学肥料の碑(大島1)



明治14年 (1881)	内務省警視局消防第六分署開設(後の深川消防署)
明治17年 (1884)	工部省深川セメント工場、浅野総一郎に払い下げ
明治18年 (1885)	新大橋〜吾妻橋間に通船開始
明治19年 (1886)	東京廻米市場を佐賀に設置
明治20年 (1887)	平井新田地先海面埋立地を洲崎弁天町として深川区へ編入
明治21年 (1888)	東京紡績が東大工町(三好)に設立 高峰謙吉、渋沢栄一、浅野総一郎らが東京人造肥料会社設立
明治22年 (1889)	砂村火葬場が荻新田(北砂6)に新築移転 洲崎遊郭開業
明治23年 (1890)	東京人造肥料会社が大島で日本で初めて化学肥料(過燐酸)を製造。碑が釜屋堀公園(大島1)に現存 東京市成立。亀戸村、大島村、砂村に村制施行 鈴木藤三郎が砂村に鈴木製糖所を設立、翌23年に日本で初めて精製糖を製造。碑現存(北砂5) 木場に深川電燈会社開業、深川に初めて電燈がつく 東京市内に電話開通
明治29年 (1896)	日本製粉(株)創立

③ 年表編

昭和5年 帝都復興祭時の清澄通り  
 明治、昭和20年



昭和5年(1930)	枝川改修工事埋立地第7号(現在の豊洲1・2丁目の 深川塵芥処理工場を深川枝川町に建設 小名木川貨物駅開業 に編入)
昭和4年(1929)	枝川改修工事埋立地第4・5号(現在の枝川) 深川区
昭和3年(1928)	清澄庭園内に大正記念館建設(戦災で焼失) 深川図書館が深川公園から清澄庭園内に移転 清州橋、葛西橋架橋
昭和2年(1927)	同潤会清砂通アパート(白河3・4、三好4) 建設
昭和2年(1927)	同潤会猿江共同住宅(住吉) 建設
昭和2年(1927)	昭和と改元(12月25日)
大正15年(1926)	江戸川上水組合の亀戸町・大島町・砂町への水道工事がほぼ完成し、給水を開始(8月1日)
大正14年(1925)	「深川区史上巻・下巻」発行
大正13年(1924)	同潤会砂町住宅建設
大正13年(1924)	清澄庭園を岩崎久弥が東京市へ寄付
大正13年(1924)	市営バスが区内に開通。荒川放水路通水
大正13年(1924)	藤倉電線、高砂鉄工の工場設立
大正13年(1924)	戸町400戸、大島町1400戸、砂町1300戸

関東大震災後の深川区役所焼跡



大正12年(1923)	船堀橋完成 東京市営古石場住宅建設 関東大震災。深川区の焼失家屋約4万9000戸、亀
大正11年(1922)	枝川改修工事埋立地第1・2号を深川区に編入(現在の塩浜1・2丁目の一部)
大正10年(1921)	砂村に町制を施行、砂町となる り社会事業を開始 深川区で、方面委員制度(現在の民生委員制度)による
大正9年(1920)	清澄庭園の一部が公園として岩崎家から東京市に寄付される
大正9年(1920)	城東電車が亀戸町から大島町まで開通
大正6年(1917)	高潮により、江東区全域にわたり浸水
大正5年(1916)	東京鋼材、大島製鋼の工場設立
大正2年(1913)	伊藤左千夫死去。普門院に葬られる。墓所現存
明治45年(1912)	大正と改元(7月30日)
明治44年(1911)	東京市条例による区会を設置
明治43年(1910)	大雨による大洪水。深川区内の浸水家屋約3000戸、亀戸町、大島町、砂村の全域浸水 市制改正により、深川区は法人格を持つ自治区となる。

昭和20年 大空襲直後の江東地区  
明治、昭和20年



昭和6年(1931)	一部を深川区へ編入 深川公園庭球場(富岡1)開設。荒川放水路完成 東京市消毒所が深川枝川町に移設 汽車製造東京工場が砂町に設立
昭和7年(1932)	枝川改修工事埋立地第6号(現在の豊洲3・4・5丁目の一部)を深川区へ編入 猿江恩賜公園(住吉2)開園 清澄庭園が有料公園として開園
昭和8年(1933)	亀戸町、大島町、砂町が合併して城東区となり、東京市に編入、東京市区域は35区となる 城東消防署が亀戸に開設
昭和9年(1934)	第1回城東区会議員選挙施行
昭和13年(1938)	第3期隅田川改良工事埋立地第5号(現在の豊洲1・5丁目の一部)を深川区に編入
昭和14年(1939)	第3期隅田川改良工事埋立地第6号(現在の東雲1・2丁目の一部)を深川区に編入 高潮で城東区内の浸水家屋2万8885戸 夢の島の埋立て開始(昭和16年中止) 東京中央電話局城東分局開局

昭和16年(1941)	東京中央電話局深川分局開局
昭和17年(1942)	中村高等女学校バレーボール部149連勝始まる
昭和18年(1943)	東京芝浦電気砂町工場設立 城東区史稿発行
昭和19年(1944)	都制実施(7月1日)により、区は法人格を有するが、課税権・立法権を持たない自治区とされた
昭和20年(1945)	3月縁故疎開、深川地区2712人、城東地区3069人 4月、9月集団疎開、深川地区6397人(新潟県へ)、城東地区5420人(山形県へ) 3月東京大空襲。江東区の被害は次のとおり

	深川区	城東区	合計
焼失戸数	40000	23238	63238
死者数	18138	13543	31681
負傷者数	1722	4480	6202

また、都内の焼失戸数27万6791戸、死者7万2174人、負傷者数2万8911人であった  
4月全ての学校教育一年間授業停止とする戦時教育令出される

4 年表編

昭和24年  
昭和21年～昭和64年  
キティ台風による被害



昭和28年 (1953)	昭和27年 (1952)	昭和26年 (1951)	昭和25年 (1950)	昭和24年 (1949)
6 4 11	8 5 12 4 1 11	10 5	8 1	
清澄庭園内に大正記念館が落成	特別区道・公衆便所の設置・管理を区に移管 「木場の角乗」が都無形民俗文化財に指定 江東区教育委員会を設置 地方自治法一部改正。区の事務の制限列举、都区財政調整制度の発足、区長公選の廃止など特別区の自治権を制限	住民登録法施行 深川交通安全協会、城東交通安全協会設立 江東区の紋章を制定 トロリーバス（今井～亀戸～上野公園）開通	城東保健所を設置 第1回「成人の日」祝典を挙行 キティ台風。区内の罹災者15万4134人。床上浸水2万3493戸。床下浸水7190戸、死者13人 都営深川公益質屋設立（27年に区に移管） 深川図書館を区に移管 特別区営競馬を初めて大井競馬場で開催 第1回区内一周駅伝競走大会実施	

昭和21年～昭和64年

「江東区政ニュース」創刊号



昭和23年 (1948)	昭和22年 (1947)	昭和21年 (1946)	年代
10 12 8 6 5	4 3	9	年
板橋区から練馬区分立。23区となる 「江東区政ニュース」（現在のこうとう区報）創刊 新保健所制度発足。保健衛生事務は都の所管となり、深川・	第1回区長選挙。初代江東区長に二瓶哲治当選 第1回区議会議員選挙。当時の定員30人 地方自治法施行。東京都の区は、特別地方公共団体の特別区とし、市に準ずる基礎的自治体となり、自治権が拡大された 特別区税創設 「江東区公報」創刊 深川区・城東区を合併して江東区誕生。都の区は22区になる 6・3制教育スタート。当時の区内の小学校21校、中学校6校	都制の一部改正により、区に区長公選、課税権、条例制定権などが認められる 深川区・城東区を合併して江東区誕生。都の区は22区になる 6・3制教育スタート。当時の区内の小学校21校、中学校6校	月
			で
			き
			こ
			と

4 年表編

昭和21年～昭和64年

昭和37年 (1962)	昭和36年 (1961)	昭和35年 (1960)	昭和34年 (1959)
9	4	6	4
7	1	4	12
2	5	11	4
10			
5			
<p>東京港高潮対策工事事務所設置                      児童擁護員（緑のおばさん）の児童交通誘導開始                      特別区に国民健康保険実施                      水道局東部第一支所設置                      小中学校の夏季施設新舞子健康学園設置                      江東電話局開局                      東京港改訂港湾計画策定                      洲崎・豊洲両区民館開館                      都立保育園、道路（延長1500m以下のもの）等を区に移管                      毛利・平井・大島保育園設置                      拠出制国民年金実施                      亀戸区民館並青年館開設                      台風24号。床上浸水2734戸、床下浸水1万5500戸                      東京都の常住人口（夜間人口）一千万人を超える                      「区議会ニュース」（現在の区議会だより）創刊                      交通事情の悪化により両国川開き大会中止                      巽水門に材木がはさまり破損。床上浸水538戸、床下浸水922戸</p>			

昭和33年  
台風11号で浸水した亀戸駅前



昭和33年 (1958)	昭和32年 (1957)	昭和31年 (1956)	昭和30年 (1955)	昭和29年 (1954)
11	12	11	4	10
9	1	10	2	4
7	4	10	4	10
5	4	11	2	4
4	12	10	4	10
<p>大塚ろう学校江東分校（後の大塚ろう学校城東分教室）開校                      城東公益質屋開設                      新東京火力発電所（豊洲）の第1期工事完成                      城東図書館オープン                      下水道局越中島ポンプ所設置                      「深川の力持」が都無形民俗文化財に指定                      東京ガス豊洲工場操業開始                      トロリーバス（池袋駅前～亀戸4丁目）開通                      夢の島のごみ埋め立てを開始                      「江東区史」刊行                      江東区奨学資金貸付制度発足                      江東区体育協会設立                      アリの会が8号地（潮見）へ移転し、新・蟻の町を設立                      台風11号。亀戸の中川新橋際旧中川堤防決壊。床上浸水9601戸、床下浸水1252戸                      狩野川台風。床上浸水1万294戸、床下浸水3万4229戸                      越中島駅（貨物）開業（塩浜2）</p>				

4 年表編

昭和21年～昭和64年  
昭和40年 ごみを焼却してハ工退治(夢の島)



昭和39年 有明海岸の小判探し



昭和42年 (1967)	昭和41年 (1966)	昭和40年 (1965)	昭和39年 (1964)	昭和38年 (1963)
3	6	3	1	12
11	10	9	8	6
5	4	3	2	1
地方自治法改正。福祉事務所、宿泊所などを区に移管。特別区税が法定化される。区の組織に部制を敷く	江東区交通安全協議会発足	工業用水道南砂町浄水場が給水を開始	夢の島ハ工騒動	雷雨で床上浸水1122戸、床下浸水5000戸
夢の島ハ工騒動が仮覆土の完了により終結	台風17号。床上浸水130戸、床下浸水3048戸	台風24号。床上浸水38戸、床下浸水3137戸	砂町火葬場廃止	深川・砂町両児童保育クラブを設置
15号地のごみ埋立てを開始	あけぼの水門完成	北砂町地区に住居表示制度実施	外郭堤防完成	養護施設新舞子健康学園開設
区立結婚相談所を江東公会堂内に開設	「江東区二十年史」発行			

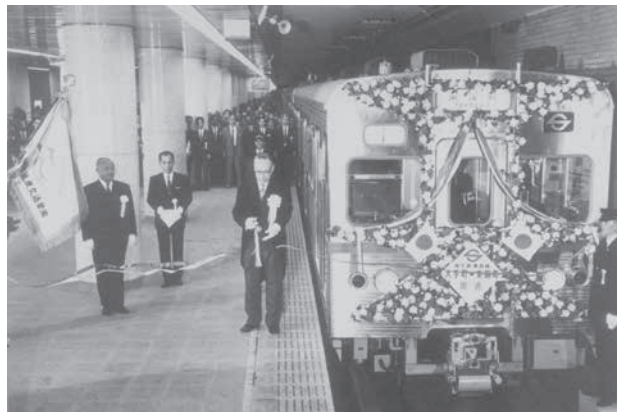
昭和40年 (1965)	昭和39年 (1964)	昭和38年 (1963)
3	1	12
11	10	8
7	3	10
1	8	3
2	3	2
1	1	1
江東公会堂が猿江恩賜公園内に落成	大島地区に住居表示制度実施	電子計算機を江東区に導入
第1回江東区防災会議開催	夏季オリンピック東京大会開催される	辰巳排水機場ほぼ完成
江東区社会福祉協議会が社会福祉法人になる	日光高原学園、市川郊外学園開設	有明の海岸から慶長小判が発見され、小判探しの人でにぎわう
	葛西橋開通	区報、毎月全世帯配布開始
	台風11号。床上浸水1274戸。床下浸水6424戸	砂町水門完成
	辰巳水門完成	区立小学校PTA連合会発足
	区立小学校PTA連合会発足	深川三好町でガス爆発事故、第一火災で死者6人、負傷者11人

4 年表編

昭和44年  
昭和21年～昭和64年  
視察中の明仁皇太子



昭和42年  
地下鉄東西線が東陽町まで開通



昭和45年 (1970)	昭和44年 (1969)
4 3	4 3 2
<p>12 老人医療助成制度実施</p> <p>10 都内初の公営スパー、東砂小売市場開設</p> <p>7 日本住宅公団大島6丁目団地入居開始</p> <p>6 白河地区南部に住居表示制度実施</p>	<p>10 住民基本台帳(住民票、選挙人名簿、国民健康保険被保険者台帳、国民年金被保険者台帳などをまとめたもの)による事務を開始</p> <p>7 辰巳・砂町両排水機場完成</p> <p>6 地下鉄東西線(東陽町～西船橋)開通</p> <p>4 日本住宅公団大島4丁目団地入居開始</p> <p>3 富岡地区に住居表示制度実施</p> <p>2 江東区初の亀戸児童館オープン</p> <p>1 明仁皇太子殿下が、大島4丁目公団団地、大島5丁目都営住宅、亀戸2丁目公団団地を視察</p> <p>1 豊洲小学校5年女児誘拐殺人事件発生</p> <p>1 江東区初の東砂福祉会館オープン</p> <p>1 城東保育園でゼロ歳児保育始まる</p> <p>1 児童手当支給開始</p>

昭和43年 (1968)
12 10 8 7 6 5 4 10 9 8 7 4
<p>14 14号地のごみ埋立て終了</p> <p>12 江東区初の区立豊洲・第五砂町両幼稚園開園</p> <p>10 南砂町・洲崎地区に住居表示制度実施</p> <p>9 城東公園内に区営城東プールオープン</p> <p>8 地下鉄東西線(大手町～東陽町)開通</p> <p>7 若竹福祉作業所開設</p> <p>6 住民基本台帳制度実施</p> <p>5 豊洲地区に住居表示制度実施</p> <p>4 日本住宅公団亀戸2丁目団地入居開始</p> <p>3 区報の新聞折込み開始</p> <p>2 江東区交通事故相談所開設</p> <p>1 小笠原諸島、日本に復帰</p> <p>1 潮見野球場、豊住庭球場開設</p> <p>1 郵便番号制度始まる</p> <p>1 亀戸地区に住居表示制度実施</p> <p>1 都営辰巳団地入居開始</p> <p>1 特別区交通災害共済制度発足</p> <p>1 小松橋地区に住居表示制度実施</p>

4 年表編

昭和48年 江東区役所新庁舎完成  
昭和21年～昭和64年



昭和47年 江東区内(東陽公園前)の都電が廃止される



昭和48年 (1973)	昭和47年 (1972)
10 8 7 6 5 4	12 11 10 4 11
<p>第1回区政世論調査を実施</p> <p>区政モニター制度始まる</p> <p>区役所新庁舎(東陽)で事務を開始</p> <p>老人福祉電話、友愛訪問員、老人ヘルパー制度開始</p>	<p>東京都ごみ対策専門委員設置</p> <p>日本初の災害対策用無線機ネットワーク新設</p> <p>老人福祉手当制度発足</p> <p>区内の都電姿を消す。廃止された系統は②福神橋～月島、④福神橋～須田町、⑧錦糸町駅～日本橋、⑨葛西橋～須田町、⑳錦糸堀車庫～門前仲町(区間は廃止時のもの)</p> <p>都ごみ対策専門委員が、「自区内処理と迷惑の公平負担の原則」にのっとった、13清掃工場の新設など21項目のごみ問題の解決策を提言</p> <p>杉並区のごみ搬入を実力阻止</p> <p>「開発行為及び中高層建築物の建設等に関する指導要綱」を制定(50戸以上のマンション・団地の建設は、区と協議を行い、公共施設の整備を義務づけるなどの行政指導を開始)</p> <p>杉並区のごみ搬入を実力阻止(2回、のべ4日)</p>

昭和46年 (1971)
10 9 5 4 3 11 8 7 6
<p>美濃部東京都知事が「ごみ戦争」を宣言</p> <p>江東区が都及び他区に対して「ごみ投棄反対に関する公開質問状」を提出。「自区内処理と迷惑の公平負担の原則」を求め</p> <p>保養所軽井沢荘オープン</p>

4 年表編

昭和50年  
六価クロム公害大島地区の  
住民健康診断  
昭和21年～昭和64年



昭和50年  
保養所河津荘オープン



昭和52年 (1977)	昭和51年 (1976)	昭和50年 (1975)
4 3 1 12 9 8 6 5 4 10	8 5	4 3
夢の島運動場オープン 日本住宅公団北砂5丁目団地入居開始 広報映画第1作「私たちの町江東区」完成 都立夢の島総合体育館オープン 電子計算組織処理に係る個人情報保護に関する条例制定 首都高速道路湾岸線（大井～13号地）開通 都立江東図書館オープン 洲崎川緑道公園一部完成 江東区が都の緑化地区に指定される スポーツ会館オープン	保養所河津荘オープン 六価クロム公害表面化。公共施設等の土壌調査、住民健康調査を実施	都住宅供給公社南砂住宅入居開始 地方自治法改正。区長公選制度が復活し、区の人事権・財政権が確立される。区は原則として市と同等とみなされ、保健所、都市計画事務、建築確認事務などが都から移管される 「声の広報」創刊

昭和49年 (1974)
12 10 9 8 6 4 3 2 12 11
高齢者無料職業紹介所開設 みどりの相談開始 防災空地条例制定 災害協力隊結成 魚の日、肉の日を開始 深川図書館白河分館開館 みどりの委員委嘱 広聴はがき制度を開始 新木場移転第1陣が営業開始 鉄道の主要駅に広報スタンド設置 「点字広報」創刊 広聴ダイヤル（広聴電話）設置 江東清掃工場完成 教育センター（白河1）オープン 消費者ダイヤル設置 休日急病診療所開設 中央防波堤内側埋立地のごみ埋立て開始

4 年表編

昭和54年 総合区民センター完成  
昭和21年～昭和64年



昭和53年 区民農園(辰巳)オープン



昭和54年 (1979)					
5	4	3	12	10	8
江東区高齢者事業団設立	富岡北、潮見、扇橋、亀戸北、大島東の各地区集会所開設 亀戸駅東口自転車駐車場開設	清澄庭園が都の文化財(名勝)に指定される 総合区民センター完成 南砂緑道公園開園	江東区中高層建築物の建築に係る紛争の予防と調整に関する条例施行	「江東区基本構想」策定	扇橋閘門完成。東部地域の内部河川水位低下実現
				東京都日影による中高層建築物の高さの制限に関する条例施行 起震車マントル号活動開始	夢の島少年野球場オープン 集合住宅居住者意識調査を実施 潮見野球場にナイター設備完成
				都営地下鉄新宿線(岩本町～東大島)開通	東大島駅自転車置場完成
				扇橋閘門完成。東部地域の内部河川水位低下実現	扇橋閘門完成。東部地域の内部河川水位低下実現

昭和53年 (1978)											
7	6	5	4	3	2	1	12	10	8	6	5
隅田川花火大会復活	有明地先13号地で宇宙科学博覧会開幕	テレホン教育相談開設	大島緑道公園開園	明治丸が国の重要文化財に指定	辰巳に区民農園オープン	江東養護学校(後の江東特別支援学校)開校	防災パンフレット「大地震にそなえて」を全世帯に配布	新木場地区に住居表示制度実施	防炎用三角バケツを全世帯に配布	首都高速道路湾岸線荒川湾岸橋開通	区の木「クロマツ」と区の花「サザンカ」を制定
											南砂出張所新設・業務開始
											中央企業景況調査始まる
											夢の島いこいの家オープン
											第1回消費者展開催
											区報、月2回(1・15日)発行開始
											亀戸緑道公園開園

4 年表編

建設中の芭蕉記念館  
昭和21年～昭和64年



昭和56年  
第1回江東シーサイドマラソン



昭和57年 (1982)	昭和56年 (1981)
4	8
3	10
2	11
1	11
11	7
7	6
6	5
5	4
4	3
3	3
2	11
1	10

集合住宅周辺居住者に「町づくりに関するアンケート」を実施

江東区文化財保護条例を制定

豊住魚釣場オープン

東砂庭球場オープン

初の登録文化財48件を登録

芭蕉記念館オープン

中国からの引揚者世帯に生活指導員の派遣を開始

森下通り魔殺人事件発生

みどりの実態調査を実施

江東区の歴史と生活展、「木場の木遣」「砂村囃子」を公開

第1回江東シーサイドマラソン実施

江東区伝統工芸保存会発足

児童会館オープン

区役所前に平和を祈念する母子像「希い」<sup>ねが</sup>建立

財団法人江東区地域振興会設立

仙台堀川公園（区民の森）開園

中国帰国者日本語学級開設

昭和55年 (1980)
6
4
3
2
1
11
10
9
7
6

特別養護老人ホーム「あそか園」開設

スポーツ会館区民プールオープン

総合区民センターに不用品情報コーナー開設

第1回江東区都市計画審議会を開催

勤労福祉会館、内職補導所が区に移管

隅田川大橋開通

あそか園で寝たきり老人のための緊急一時保護と入浴サービスを開始

仙台堀川砂町魚釣場オープン

越中島と南砂にマラソンコースを設定

中の島公園開園

首都高速道路9号深川線（箱崎～辰巳）と、湾岸線（辰巳～新木場）が開通

木場授産場、児童学園、生活実習所が区に移管

都営地下鉄新宿線（岩本町～新宿）が開通

東京都動物の保護及び管理に関する条例（ペット条例）施行

江東区が東京都米穀小売商業組合江東支部と「災害時における応急用精米の優先供給に関する協定」を締結

4 年表編

昭和58年  
（コミュニティ道路  
江東区文化センター前）  
昭和21年～昭和64年



昭和57年  
江東区文化センターオープン



10	9	8	7	6	5	4
						都市再開発拠点構想の調査報告書まとまる
						コミュニティ道路（江東区文化センター前）完成
						建築物の不燃化助成事業実施
						新夢の島（現在の若洲）でバラバラ殺人事件発生
						有明テニスの森公園オープン
						猿江恩賜公園全面オープン
						誕生証書の交付開始
						広報映画のビデオ版完成
						防災行政用無線局の定時放送開始
						豊川河川敷公園にワンパク池オープン
						金融機関第2土曜日一斉休日実施
						富岡八幡宮に大関力士碑と巨人力士身長碑建立
						集合住宅郵便物留め紛争住宅訴訟退けられる
						まちづくり懇談会報告書まとまる
						あかぎ国体夏季大会ヨット競技が新夢の島で開催
						第1回みどりの写真コンクール実施
						区長が三宅島（噴火被災地）を慰問
						第1回江東区民まつり開催

3	2	11	10	9	8	7	6	5
								スポーツ会館屋内温水プールオープン
								防災行政無線一部開局
								江東区文化センターオープン
								区道補助117号線（北砂3～東砂2）全線開通
								区民海の家を開設
								区政PRコーナー開設
								第1回砂町花火大会実施
								新東京百景決まる。江東区から「清澄庭園」「亀戸天神」「清洲橋と新大橋」が選ばれる
								豊川河川敷公園開園
								13号埋立地帰属問題の調停が成立
								亀戸図書館オープン
								老人保健制度開始
								障害者福祉センターオープン
								防災行政無線が完成
								フランスの資源エネルギー庁がスポーツ会館のソーラーシステムと文化センターの雨水利用システムを視察
								老人の生活意識調査まとまる

昭和58年  
（1983）

4 年表編

昭和60年 水上アスレチックオープン  
昭和21年～昭和64年



昭和58年 第1回江東区民まつり開催



昭和60年 (1985年)											
4	3	2	1	12	11	10					
水上アスレチックオープン 教育センター・東陽図書館開館 豊住公園内に区内初の専用ゲートボール場オープン 江東区「家庭の日」を毎月第3日曜日に制定	江東区結婚相談室廃止 江東区総合実施計画策定 塩浜2丁目適正化事業完了	東陽5丁目に寄席「若竹」オープン 小名木川の護岸2341mに河川並木整備(桜69本、クロマツ313本)	深川老人福祉センターオープン	千ばつによる飢餓に苦しむアフリカへ毛布を500枚贈る	隅田川沿岸9区初の「隅田川サミット」開催	隅田川沿岸9区初の「隅田川サミット」開催	23区の行政改革ガイドラインまとまる	国籍法・戸籍法の改正(父母両系主義の採用等)	千ばつによる飢餓に苦しむアフリカへ毛布を500枚贈る	深川老人福祉センターオープン	江東区総合実施計画策定

昭和59年 (1984年)													
8	7	6	5					4	3	2	1	12	11
江東運転免許試験場オープン	小名木川の灯ろう流し27年ぶり復活	江東区「みどりの日」(6月5日)を制定	城東老人福祉センターオープン	区道補助198号線が全線(塩浜2～新砂1)開通	歴史と文化の散歩道(下町深川散歩・深川芭蕉庵散歩)決定	千石運動公園オープン	横十間川親水公園区民の水辺ボート場オープン	西部土木事務所が清澄から木場に移転	休日歯科診療開始	仙台堀川公園に14面の護岸壁画完成	婦人問題意識調査まとまる	夢の島東少年野球場オープン	写真集「江東区の野草」発行

4 年表編

昭和61年 横十間川の整備完了  
昭和21年～昭和64年



昭和60年 水上バス「こうとうりば」



昭和61年 (1986)					
6	5	4	3	2	1
元横綱北の湖が北の湖部屋の土俵開き行う 石本環境庁長官が横十間川親水公園を視察 有明2丁目で東京大空襲の犠牲者の遺骨発掘調査実施 写真集「続 江東区の野草」発行 「都区制度改革の基本的方向」が都区で合意 「ガスの科学館」(豊洲6)オープン 白河1丁目に居酒屋風公衆便所設置 大横川の護岸1516mに河川並木整備(桉216本) 横十間川親水公園に「生物の楽園」完成。仙台堀川・横十間川の整備完了 新国民年金制度スタート 「江東区の文化財」「寛永録 巻」発行 野鳥の生息調査実施 江東区産業会館開館 東京ヘリポートで日本初のヘリコプターショー開催 数矢小学校1年男児誘拐殺人事件発生 住民基本台帳法改正。個人のプライバシー保護等を図る 福祉施設等にミニファクスを設置					

12	11	10	9	8	7	6
三好3丁目で大雨による土砂流出により道路陥没事故発生 亀戸・東陽図書館で目の不自由な方に対面朗読開始 自治体初の水上バス運行開始(船名かわなみ:こうとうりば) 潮見庭球場(全天候型)オープン 江東区老人問題検討委員会が特別養護老人ホーム建設についての答申を提出 潮見に木の展示館開館 区内9か所に災害時用造水機設置 毛利福祉作業所改築、障害者通所授産施設(あすなろ作業所)開設 アジア・アフリカ難民に乾パン6万6176食分贈る 「深川の力持」が文化庁の60年度地域文化功労者に選ばれる 深川公園内にあずまや風公衆便所設置 放置自転車条例施行 東京港に青海コンテナ埠頭完成 豊川河川敷公園に護岸壁画完成 深川高校で体育館建設工事中に鉄骨倒壊事故発生、死者4人 23区共同で文字放送を開始						





5 年表編

八幡橋 (都内最古の鉄橋)  
平成元年～平成31年



平成元年  
古石場川親水公園完成



平成元年～平成31年

5

平成2年 (1990)	
年	月
4	3
2	12
10	8
7	6
<p>東雲保育園の女児(5歳)誘拐殺人事件発生 有明の都道建設現場で250kg級の不発弾が発見され、撤去される</p> <p>東大島駅周辺「自転車放置禁止区域」に指定</p> <p>南砂の高層集合住宅で火災発生 情報公開制度実施</p> <p>八幡橋「米国土木学会賞」受賞</p> <p>亀戸駅北口自転車駐車場開設 用途地域等の新指定決まる</p> <p>区報用紙に再生紙導入</p> <p>放置自転車リサイクル事業開始</p> <p>外国人向け便利帳「暮らしのガイド」発行</p> <p>PR誌「トウインクル・タウン」発行</p> <p>JR京葉線(新木場～東京)開通</p> <p>水上バス、フリー乗船開始</p> <p>東砂出張所サービスセンターオープン (国土地理院の測量数値等の変更により1.5km増となる)</p>	

平成元年 (1989)	
年	月
5	4
3	2
1	1
<p>「平成」と改元(8日)</p> <p>金融機関毎週土曜日一斉休日実施</p> <p>東京都臨港鉄道廃止</p> <p>東陽出張所庁舎完成。内職サービスセンター門前仲町から移転 情報公開条例制定(10月施行)</p> <p>区役所土曜閉庁を実施(第2・4土曜日)</p> <p>古石場川親水公園完成</p> <p>豊洲文化センターオープン</p> <p>PR誌「江東情報館」発行</p> <p>カナダ・サレー市と姉妹都市提携</p> <p>区報、写真のカラー化始まる</p> <p>芭蕉奥の細道旅立300年記念イベント開催</p> <p>豊洲図書館オープン</p> <p>第1回江東こどもまつり開催</p>	

⑤ 年表編

平成3年  
平成元年～平成31年



女性センター（現・男女共同参画推進センター）、消費者センターオープン



公共建築賞を受賞した教育センター（左）と東陽図書館（右）

12	11	10	9	8	7	4	3
駐車場整備資金融資あっせん制度発足 鈴木東京都知事が江東区役所を訪問して、清掃工場を設置し	図書館のオンラインシステムの稼働（全館オンラインの稼働は4年7月から） 海辺橋に橋上ギャラリー開設	区議会が都のごみの新海面処分場建設計画に抗議 スリーアップKOTO21推進事業始まる	「江東区報」の歩行障害者への郵送開始	「集団回収支援事業」が都から区へ移管	江東区青少年センター（扇橋3）オープン	江東区女性センター（現・男女共同参画推進センター）・江東区消費者センター（扇橋3）オープン	写真集「続続 江東区の野草」発行 「江東の昭和史」発行 第1回江東区まちなみ景観賞発表 地域防災無線システムの運用開始 財団法人江東区中小企業公社設立 「想いDE写真館」発行

1	12	11	10	9	8	7	6	5	
東京23区内の市内局番4桁に 南砂町駅西口自転車駐車場設置	若洲にパブリックゴルフ場「若洲ゴルフリンクス」がオープン	天皇「即位の礼」行われる	亀戸スポーツセンターオープン	を内閣総理大臣に提出 第二十二次地方制度調査会、「都区制度の改革に関する答申」	新局開局	新砂2丁目に東洋一の規模を誇る新東京郵便局・東京小包郵便局開局	「江東区基本構想」策定	砂町図書館オープン 土曜日の夜間急病診療開始	砂町文化センターオープン 「江東区学校教育のあゆみ」発行 江東区基本構想審議会、「江東区基本構想」「江東区基本計画に盛り込むべき施策のあり方」について答申 第2回公共建築賞（建設大臣表彰）受賞（東陽図書館、教育センター）

平成3年  
(1991)

<シンボルマーク>



シンボルマークのねらい

Kは臨海部に発展していく江東区の未来イメージを、  
Oは下町に息づく人の心の温もりを、  
青是水辺のまち江東を、  
緑は大切な自然環境を表しています。

[ K～江東ブルー  
O～江東グリーン ]

平成5年 (1993)											
1	12	11	10	9	8	7	6				
住民票写し・戸籍謄本等の郵便局からの交付請求開始 都立木場公園オープン 区役所の完全週休2日制スタート 特別養護老人ホーム「北砂ホーム」オープン 区内小学生による「子ども会議」を開催 区の面積39・10km <sup>2</sup> となる 東西線南砂町駅周辺を自転車放置禁止区域に指定 「江東区テレホンガイド」がスタート 住民票写し・納・課税証明書の電話予約スタート 「江東区子どもの実態調査」まとまる 学校週5日制実施 江東区老人大学を江東区自悠大学と改名 夢の島マリーナで国内初の障害者ヨット大会開催 景気対策特別資金融資を実施 第10回江東区民まつりを木場公園で開催 有明の不発弾処理 高齢者家庭への「おはよう訪問」スタート 第1回スリーアップフォーラム開催											



平成4年 (1992)				
5	4	3	1	
森下文化センターオープン 小松橋出張所・区民館(扇橋2)新設移転 東大島出張所サービスセンターオープン 東大島図書館オープン 「江東区長期基本計画」を策定 リサイクルセンター(猿江1)開設 第2回「みどりの実態調査」まとまる スリーアップKOTO21区民アンケートまとまる 深川江戸資料館入館者100万人を記録 区の助役を2人制とする 木場親水公園オープン 姉妹都市、カナダ・サレー市長一行が区役所を訪問 「江東区報」全号カラー化(1面・最終面) 荒川・砂町水辺公園オープン 亀戸老人福祉センターオープン 「重度身体障害者緊急通報システム」事業開始				

⑤ 年表編

平成6年  
若洲ゴルフリンクスで  
初の区民ゴルフ大会開催  
平成元年～平成31年



平成6年 (1994)										
9	8	7	6	5	4	3	2	1		11
<p>第二次景気対策特別資金融資を実施</p> <p>夢の島マリンフェスティバル開催</p> <p>新公会堂の愛称が「ティアラこうとう」に決まる</p> <p>テレポートピア構想指定都市記念フォーラム開催</p> <p>第2回スリーアップフォーラム開催</p> <p>深川郵便局（東陽4）新築移転</p> <p>漣橋（潮見1～辰巳2）開通</p> <p>水上バスお花見クルージング運航開始</p> <p>3歳未満乳幼児の医療費助成制度の所得制限撤廃</p> <p>シヨートステイ送迎サービス事業スタート</p> <p>江東区報創刊1000号</p> <p>夢の島野球場ナイター開始</p> <p>在宅支援センターオープン（北砂ホーム）</p> <p>越中島プール新築オープン</p> <p>特別区制度改革早期実現へ街頭PR</p> <p>リフト付福祉タクシー運行開始</p> <p>若洲ゴルフリンクスで初の区民ゴルフ大会開催</p> <p>スリーアップスローガン「水彩都市・江東」決定</p>										

平成5年  
東京辰巳国際水泳場オープン



10	9	8	6	5	4	3	2
<p>江東区の「シンボルマーク」を発表</p> <p>深川南部保健相談所オープン</p> <p>枝川高齢者在宅サービスセンターオープン</p> <p>越中島の地下の水道工事現場でガス爆発事故</p> <p>区役所庁舎案内表示の改修</p> <p>区役所組織改正、福祉・都市整備部門を中心に改正</p> <p>乳幼児医療費助成事業開始</p> <p>江東区女性大学スタート</p> <p>塩浜福祉プラザオープン</p> <p>特別区行政情報システム（TWA IN）運用開始</p> <p>東京辰巳国際水泳場オープン</p> <p>リサイクルおもしろアイデアコンテスト開催</p> <p>レインボーブリッジ開通</p> <p>区役所の福祉部門の組織を大幅に改正</p> <p>学校給食の生ゴミの肥料リサイクルモデル事業開始</p> <p>CATV・江東ケーブルテレビ開局。区制作番組の放送開始</p> <p>「テレポートピア構想」の指定都市となる</p> <p>深川図書館改築オープン</p>							



⑤ 年表編

平成8年 「旧大石家住宅」移築・復元  
平成元年～平成31年



12	11	10	9	8	7	6
						<p>海浜公園・中央防波堤内側埋立地 水上バス臨海副都心クルーズスタート 亀戸高齢者在宅サービスセンターオープン（亀戸第四保育園併設） いじめ防止シブジウム開催 24時間在宅ケアサービスモデル事業開始 荒川河口橋（一般国道357号）開通 東京都が見直し後の新しい「臨海副都心開発基本方針」決定 病原性大腸菌O-157全国に猛威を振るう 区内最古の木造茅葺き住宅「旧大石家住宅」移築・復元 スポーツ情報システム「江東区スポーツネット」稼働 江東区行政手続条例制定（平成9年4月施行） 小選挙区比例代表並立制で初の衆議院議員選挙 江東区立学校適正配置等審議会設置 東砂スポーツセンターオープン 深川江戸資料館開館10周年記念「ジュサブロー人形展」開催 事業系ごみ有料化開始 深川の渡し開始（横十間川親水公園）</p>

平成8年 第47回全国植樹祭（辰巳の森海浜公園）



平成8年 (1996)				
5	4	3	2	
				<p>江東区が「臨海副都心計画見直しに関する提言」を東京都に提出 第4回スリーアップフォーラム開催 小名木川に15か所の消防用導水装置設置 防災袋・防災用品全戸配布 辰巳桜橋（東雲1～辰巳1）開通 りんかい線（新木場～東京テレポート）開通 広報スタンドをりんかい線3駅に設置（東雲・国際展示場・東京テレポート） 臨海副都心始動 乳幼児医療費助成を就学前までに引き上げ 有明スポーツセンターオープン 国際展示場「東京ビッグサイト」オープン 深川老人福祉センター森下分館オープン 第1回行政改善懇談会開催 城東南部保健相談所オープン 城東公園新装オープン</p>

⑤ 年表編

平成10年 東京消防出初式  
平成元年～平成31年



平成9年 東雲図書館オープン



平成10年 (1998)					
3	2	1	12	11	10
古石場二丁目地区第1種市街地再開発事業を都市計画決定	不況対策緊急融資を実施 しおかせ橋(塩浜2～枝川3)開通	亀戸で男子中学生が警察官をナイフで刺して短銃を奪おうとする事件発生	東京消防出初式が、中央区晴海から会場を移し、有明で開催される	江東区環境基本計画策定 亀戸駅前公園内に荒川水位表示塔完成	「江東区みんなでまちをきれいにする条例」制定(平成10年1月施行)
					6 「江東区男女共同参画プラン」策定 第13回区政世論調査実施
					9 東京都水の科学館オープン 学校適正配置等審議会「中間のまとめ」報告

平成9年 (1997)			
5	4	3	2
東雲図書館オープン	有明スポーツセンターに「臨海副都心情報コーナー」オープン 江東区立図書館、図書検索システムを導入	「江東区立図書館、図書検索システムを導入」策定	赤帽首都圏軽自動車運送協同組合城東支部と「災害時における輸送用軽自動車優先提供」協定を締結
			基礎年金番号スタート
			行財政改革大綱策定
			区制施行50周年記念事業開催
			選挙管理委員会が20歳代の投票立会人を募集
			「江東区史」上・中・下3巻刊行
			内職サービスセンター廃止
			小・中学校全校のコンピュータ室整備を完了
			「江東区児童福祉計画―未来をひらく子どもプラン21―」策定
			区の面積39・20kmとなる
			東砂福祉プラザオープン
			第三あすなろ作業所が門前仲町にオープン
			高齢者在宅複合施設「寿園」オープン

⑤ 年表編

平成11年 パレットタウンオープン  
平成元年～平成31年



平成10年 東陽橋開通



平成11年 (1999)					
6	5	4	3	12	11
<p>11 かりつけ医紹介制度スタート（相談窓口は江東区医師会） 江東区水上バス14年間の運航終える（平成10年度末事業廃止、民間会社に事業継承するが平成15年1月廃止） 不況対策緊急融資（2次）を実施 環境基本条例、都市景観条例を制定（平成11年4月施行） 漫画家田河水泡氏の遺品を遺族から江東区へ寄贈を受ける 「江東区基本構想」策定 パレットタウンオープン 江東区地域振興券の交付を開始 松永橋（福住2～佐賀2）架替工事完成 東雲区民館廃止 女性史「江東に生きた女性たち——水彩のまちなぎの近代」発行 乳幼児専門保育園スタート（南砂第五保育園） 区の面積39・44km<sup>2</sup>となる（国土地理院「全国都道府県市区町村別面積」に基づく） リサイクル堆肥「江東くん」の配布を開始 江東区子ども家庭支援センター（現・東陽子ども家庭支援センター）が東陽出張所3階にオープン</p>					

10	8	7	5	4
<p>4 江東区都市計画マスタープラン（地区別まちづくり方針）策定 「江東区個人情報保護条例」制定（平成11年1月施行） 議員定数を48人から44人とする議員定数条例制定（次回選挙から施行） 「派遣一時保育」を開始 学校給食調理業務民間委託5校で実施（南陽小・第一亀戸小・辰巳小・第四大島中・南砂中） 東陽橋（東陽2～塩浜2）開通 「地方自治法の一部を改正する法律」公布 第18回参議院議員通常選挙で投票時間を2時間（午後8時まで）延長（不在者投票も3時間延長） ティアアラこうとうでNHKのど自慢公開放送 第1回深川ソレイレ大会開催 撤去された放置自転車の引取りが1台20000円の有料制となる 新江東清掃工場が本格稼働</p>				

⑤ 年表編

平成12年  
介護保険制度スタートに伴う  
臨時受付窓口設置  
平成元年～平成31年



平成11年  
甲子園初出場を決め、喜びにわく  
城東ナイン



平成12年 (2000)							
8	7	5	4	3	1	12	
<p>戸籍事務のコンピューター処理開始 豊洲小学校改築終了、新校舎で授業開始 江東区内共通商品券を発売 第三大島小学校移転、新校舎で授業開始 新舞子健康学園廃止 木場授産場廃止 都区制度改革により江東区は基礎自治体へ。清掃事業をはじめとする38の事務事業が区へ移管 介護保険制度始まる 浅間小と堅川小が浅間堅川小に、第二砂町小と第二東砂小が第二砂町小に、南砂西小と南砂東小が南砂小にそれぞれ統合 さくら幼稚園とすみれ幼稚園がみどり幼稚園に統合 江東区交通安全宣言 江東区ホームページスタート 1時間82・2ミリの記録的集中豪雨 福祉のまちづくりネットワークス発足 亀戸出張所、カメラアプラザに移転業務開始 「江東区民憲章策定区民会議」発足</p>							

11	10	9	8	7			
<p>「ドリムアイランド(仮称)基本計画検討調査報告書」発表 PHS通信網を利用した「徘徊高齢者探索サービスモデル事業」スタート 全国高校野球選手権大会の東東京大会で都立城東高校が初優勝(甲子園出場決定) 都立城東高校が甲子園に初出場(対智弁和歌山戦2―5で惜敗) 有明で第20回七都府市合同防災訓練が行われる。小淵総理大臣と石原都知事が状況視察 区立小・中学校の全校でインターネットに接続 エコ・リサイクルハウス(南砂6)オープン 直営保養所 軽井沢荘廃止 介護保険、要介護認定の申請受付がスタート コンピューター西暦2000年問題危機管理計画策定 「奥の細道」江東サミット開催 区内全域でゴミ収集時間が午前8時からとなる 亀戸児童館移転新築オープン 森下文化センター内に「田河水泡・のらくろ館」オープン</p>							



10	9	8	7	6	5	4
<p>戸駅周辺の放置自転車台数が都内第1位となる(旧堅川小学校跡地に中央学院大学中央高等学校が移転開校(亀戸7))</p> <p>都立科学技術高校(大島1)開校</p> <p>「江東区生活安全条例」施行</p> <p>区議会に「放置自転車対策特別委員会」を設置</p> <p>全小学校全学年で外国人講師による英会話の授業開始</p> <p>区内中小企業の総合的IT化支援サイト「KINET」スタート</p> <p>「国際研究交流大学村」(青海2)オープン(日本科学未来館・東京国際交流村・臨海副都心センター)</p> <p>都立城東高校が2度目の甲子園出場</p> <p>都バス路線新設(南砂町駅～亀戸駅)</p> <p>「北砂リーグ」がリトルリーグワールドシリーズで世界1位に</p> <p>「江東区マンション建設急増対策本部」を設置</p> <p>ごみ出しサポーター事業実施</p> <p>新しい情報公開制度スタート</p> <p>亀戸～新木場間のLRT事業の検討開始</p>						

区民のちかい — 江東区民憲章 —

江東区は隅田川と荒川に囲まれ、東京湾に向かって発展してきたまちです。わたくしたちは先人の築いた伝統と文化を引きつぎ、震災や戦災などの教訓を生かして、新しいまちづくりをしています。

だれもが住みよい明るいまちを築くため、ここに区民のちかいを定めます。

1. 緑と水に恵まれて ゆたかな心を育てます
1. 世代を越えて支えあい 心のふれあい強めます
1. ともに考え学びあい 未来の文化をつくります
1. 働く誇りと喜びで 活気と笑顔をわかせます
1. 同じ地球に住む仲間 世界の人と話します

平成13年3月22日 江東区

平成13年 (2001)					
3	1	12	11	10	9
<p>「豊洲駅前地区再開発都市計画」決定</p> <p>行政評価システムを導入した、江東区長期基本計画を策定</p> <p>「区民のちかい—江東区民憲章—」制定</p> <p>IT講習、3会場(青少年センター、教育センター、江東図書館)で開始</p> <p>江東区一般廃棄物処理基本計画を策定</p> <p>「亀戸駅周辺放置自転車対策協議会」を設置(都の調査で亀戸)</p>					
<p>三宅島から島民避難開始</p> <p>アメリカプラザオープン(亀戸文化センター、商工情報センター)</p> <p>区内初の公設民営保育施設「八名川グループ保育室」オープン</p> <p>第20回記念「江東シーサイドマラソン大会」開催。20kmコースのほか、10kmコースが新設される</p> <p>江東区財政白書策定</p> <p>砂町文化センター内に、「石田波郷記念館」開設</p> <p>大江戸線全線開業、「門前仲町」・「清澄白河」・「森下」の3駅開業</p> <p>ファミリーサポーター事業始まる</p>					

⑤ 年表編

平成14年 明治小学校開校130年記念式典  
平成元年～平成31年



10	9	8	6
城東プール廃止	東京が「豊洲、晴海地区の開発整備計画再改定」で築地市場の移転先を豊洲と発表	住民基本台帳ネットワークシステム第一次稼働 区の人口が40万人を突破 保健所が健康センター内に移転	明治小と白河小が明治小に、第一亀戸小と亀島小が第一亀戸小に、第三大島中と第四大島中が大島西中にそれぞれ統合 初の公設民営保育園「潮見保育園」・「猿江保育園」オープン 江東区立図書館（10館）、貸出などの窓口業務を民間委託 国民年金保険料の取り扱いが国（社会保険事務所）に変わる 「マンション急増対策」の基本方針を決定。豊洲小、東雲小、枝川小、第三砂町小、第五砂町小を受入困難地域に指定 区役所2階に総合窓口を設置 「マンション等建設指導要綱」制定 東京都江東高齢者医療センター等（新砂3）オープン 区立図書館でインターネットの蔵書検索・予約システム稼働 文化センターで「第1回江東区女性会議」開催

平成13年 窓口業務延長



平成14年 (2002)				
4	2	1	12	11
学校選択制度・完全学校週5日制スタート	「江東区男女共同参画プラン21」策定 「教育改革江東・アクシオンプラン21」策定 「江戸切子」が国の伝統的工芸品に指定される	第15回世論調査結果を発表。定住意向86・7% 旧江東清掃工場跡地に三宅村「ゆめ農園」を開園 芝浦工業大学が豊洲3丁目に新キャンパスを移転させると発表。2006年春開校	富岡在住の山本一力さんが「あかね空」で直木賞受賞 区内金融機関の破綻に伴い、「金融機関破綻緊急特別資金融資」実施、「特別相談窓口」を設置	富岡八幡宮境内に伊能忠敬の銅像建立 区役所本庁舎窓口業務を毎週水曜日午後7時まで延長 区内初の認証保育所東大島駅前保育園オープン 区内中小業者（食肉卸売業者・小売業者、飲食店等）に対し、狂牛病対策緊急斡旋事業開始 墨東病院内に24時間体制の「東京ER・墨東」を新設 「潮見さざなみ公園」オープン

⑤ 年表編

平成15年  
平成元年～平成31年  
中川船番所資料館オープン



平成15年  
「小津安二郎紹介展示コーナー」  
オープン



	8	6	4
	<p>二学期制モデル校4校（深川第二中・深川第三中・深川第四中・第二南砂中）でスタート メディケアイリスト開設。新砂3丁目に高齢者福祉・医療の一大拠点完成 元加賀小でシックハウス症候群の原因物質「トルエン」が検出され、児童は旧白河小に通学 亀戸福祉園オープン 天皇・皇后両陛下がゆめ農園にご来訪 大島子ども家庭支援センターオープン 潮見証明書交付コーナーオープン 東京都の調査で豊洲駅前の放置自転車台数が都内ワースト第3位になる 深川青年館並区民館廃館 江戸開府400年を記念し、富岡八幡宮二の宮御輿が丸の内皇居前に巡行 YMC Aキヤナルコート保育園・東雲第二学童クラブオープン 住民基本台帳ネットワークシステム本格稼働</p>		

			平成15年 (2003)	
	3	2	1	12 11
	<p>明治小開校130年記念式典に皇太子殿下・同妃殿下がご臨席される 深川北スポーツセンターオープン 総合区民センターに、平日夜間子どもクリニック開設 室橋区長が英国より「名誉大英勳章」を受章 北砂3丁目のマンション建設現場で発見された不発弾を陸上自衛隊が撤去 木場親水公園内に、江戸開府400年を記念して埋立てによる変遷のパネルを常設展示 りんかい線全線開通（新木場～大崎） 都バス路線新設（新木場～亀戸～錦糸町） 「小津安二郎紹介展示コーナー」を古石場文化センターに開設 「マンション急増対策」による受入困難地域に明治小と川南小の通学区域を追加 地下鉄半蔵門線「清澄白河」駅・「住吉」駅開業 中川船番所資料館オープン 河津荘廃止</p>			

⑤ 年表編

平成16年  
カンボジアへ贈る机やイスを  
コンテナへ積み込み  
平成元年～平成31年



12	11	10	8	7	6	5
証明書自動交付機を区内5か所に設置 亀戸十三間通商店街、砂町銀座商店街に防犯カメラの設置が	小中学生に防犯ブザーを無料配付 2万円贈呈	区商店街連合会と災害時の物資供給の協定を締結 ハッピーセカンド事業スタート（第2子以降出産で商品券	佐賀2丁目に障害者通所授産施設完成 締結	ケーブルテレビ、地域FMラジオと災害時の情報提供協定を	インディアンインターナショナルスクール日本が森下1丁目 に開校	辰巳の森海浜公園にドッグランオープン 城東区民農園、みどり館オープン 深川北子ども家庭支援センターオープン 「江東区アウトソーシング基本方針」策定 カンボジアへ机やイスなどを贈る海外支援事業開始 日本科学未来館で、約500万個の星を映し出すプラネタリ ウム「メガスターII cosmos」公開開始 インディアンインターナショナルスクール日本が森下1丁目 に開校

平成16年  
風車完成（若洲海浜公園多目的広場）



平成16年 (2004)						
4	3	1	12	11	10	9
潮見運動公園リニユアールオープン	都立大江戸高校開校、同年7月千石へ移転	白河かもめ保育園オープン	東陽出張所、東大島サービスセンター、東砂サービスセンタ ーが証明書交付コーナーに変更	「江東区男女共同参画条例」施行	BumBum東京スポーツ文化館オープン 「やさしいまちづくり推進計画」策定	清砂大橋（新砂）江戸川区清新町）開通 若洲海浜公園に国内最大級の風車完成 「マンション建設計画の調整に関する条例」を施行 第16回世論調査結果を発表。定住意向85・2% んと石井清子さん 江東区文化・スポーツ功労章顕彰、初の受章者は芳賀智文く 清掃リサイクル条例改正。「資源物」の所有権は区に帰属 辰巳の森海浜公園に天然芝のラグビー専用練習場オープン 東京商船大学が、東京水産大学と統合して東京海洋大学に 豊洲駅周辺を「自転車放置禁止区域」に指定

⑤ 年表編

平成17年 コミュニティバス「しおかぜ」  
運行開始  
平成元年～平成31年



平成18年 (2006)									
2	1	12	11	10	8	7	5		
<p>軽自動車税・区税・国保料のコンビニ収納スタート</p> <p>深川地区と臨海副都心を結ぶ「深川シャトル」運行開始</p> <p>精神障害者地域生活支援センター「ステップ」開設</p> <p>荒川ロックゲート開通</p> <p>亀戸駅エレベーター完成</p> <p>区の面積39・49kmとなる（国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に基づく）</p> <p>江戸木彫刻師の岸本忠雄さんが名誉都民に</p> <p>保育料のコンビニ収納スタート</p> <p>江東区コミュニティバス「しおかぜ」運行開始</p> <p>江東シーサイドマラソン 20kmの部に代えてハーフマラソンの部を新設</p> <p>重症心身障害児（者）施設「東京都立東部療育センター」一部開設。全面開設は平成18年4月</p> <p>第17回世論調査結果を発表。定住意向87・8%</p> <p>栃木県大田原市、埼玉県秩父市と災害時相互応援協定締結</p> <p>特別養護老人ホーム「あじさい」オープン</p> <p>江東区観光キャラクター3種類が決定</p>									

平成17年 荒川ロックゲート開通



平成17年 (2005)			
4	3	2	1
<p>完了</p> <p>インターネットを通じた電子申請サービス開始</p> <p>白河三丁目地区再開発ビル完成</p> <p>有明の丘防災拠点に、災害時の後方医療機関としてがん研有明病院開業</p> <p>江東区ホームページリニューアル、統一感のある見やすいサイトへ。携帯版も併せて新設</p> <p>「江東区長期基本計画」後期5か年（平成17年度から21年度）を改定</p> <p>「こうとう子育て未来プラン」策定</p> <p>清澄庭園「涼亭」東京都選定歴史的建造物に選定</p> <p>介護老人保健施設「かがやきライフ江東」オープン</p> <p>YMC Aオリーブ保育園、大島八丁目学童クラブオープン</p> <p>深川第八中学校改築工事終了、新校舎で授業開始</p> <p>八名川小で区内初の放課後子ども教室「げんきっず」開始</p> <p>ことも110番の家事業スタート</p> <p>豊洲三丁目公園オープン</p> <p>休日急病診療所が医師会館へ移転</p>			

⑤ 年表編

平成18年  
がすてなーに ガスの科学館  
オープン  
平成元年～平成31年



平成18年  
江東区防災センターオープン



10	8	7	6	5
<p>全区立中学校で二期制スタート 南砂子ども家庭支援センターオープン 防災専用ホームページ開設 西大島駅エレベーター完成 がすてなーに ガスの科学館が移転・オープン 白河・三好地区再開発ビル完成 区立中学校普通教室・区立保育園全保育室に冷房を導入 城東地区の観光名所をPRする「城東シャトル」運行開始 旧白河小学校跡地に「K. インターナショナルスクール東京」 (白河1) 移転・開校 区の面積39・80km<sup>2</sup>となる(国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に基づく) 豊洲駅前地区再開発ビル(豊洲シエルタワー)完成、豊洲出張所・区民館がタワー内にオープン 春海橋公園、アーバンドックらぽーと豊洲、キッザニア東京オープン ことう区報創刊1500号 江東区パブリックコメントを制度化、第1回目となる「江東</p>				

4	3
<p>ゆりかもめ 豊洲まで延伸開業 若洲海浜公園の一部(多目的広場・キャンプ場・遊具施設)と東雲南緑道公園が区へ移管され、若洲公園、東雲駅前公園としてオープン 豊洲公園移転・オープン 介護保険法改正により、介護予防サービス開始 地域包括支援センターを白河・東陽・大島・南砂の4か所に設置 障害者自立支援法施行 芝浦工業大学豊洲キャンパス開校 かえつ有明中・高等学校、東雲に移転・開校 第一大島小学校の改築工事完了、新たな校舎で新年度からスタート 江東区防災センターオープン 認可保育所「ひまわりキッズガーデン東雲」オープン 子ども医療費助成 入院医療費の無料化を中学3年生までに拡大 江東区パトロールカー夜間巡回開始</p>	

⑤ 年表編

平成19年  
やさしいまちの誘導システム  
平成元年～平成31年



12	11	10	9	7	6
<p>大島中央小・大島南小を統合し、大島南央小学校開校          万年橋周辺を「景観重点地区」に指定          放置自転車等に対応する「自転車コールセンター」を開設          英語・中国語による外国人相談事業開始          永代橋・清洲橋が国の重要文化財に指定          区立小学校の普通教室に冷房導入          権利擁護センター「あんしん江東」オープン          「江東区みどりと自然の基本計画」策定          区立若洲公園の風車のもとでコンサート開催          新基本構想策定に向け「江東未来会議」スタート          小学5・6年生の理科授業に理科支援員として芝浦工業大学          生の派遣を開始          子ども医療費の全額助成を中学3年生まで拡大          区の面積39・94kmとなる（国土地理院「全国都道府県市区町          村別面積調」に基づく）          ゆらりん豊四保育園オープン          芝浦工業大学・東京海洋大学それぞれと包括協定を締結          区内全小・中学校に電子黒板を配置</p>					

平成19年  
えこつくる江東オープン



平成19年 (2007)					
4	3	2	1	12	11
<p>区国民保護計画（素案）の意見募集を実施          清掃事務所を統合、亀戸庁舎を廃止し潮見に新庁舎を開設          新木場駅にエレベーター完成          子ども医療費助成、通院医療費無料化を小学3年生まで拡大          全区立幼小中に防犯カメラ設置へ          こうとう情報ステーション開設          豊洲子ども家庭支援センターオープン          大島駅にエレベーター完成          えこつくる江東（潮見1）オープン          第1回目となる東京マラソン2007開催          新型インフルエンザ対応訓練を実施          南砂町駅周辺の42か所にやさしいまちの誘導システム設置          認可保育所「蓮美幼児学園とよすナーサリー」「ひまわりキッ          ズガーデン豊洲」オープン          豊洲三丁目学童クラブ、豊洲四丁目学童クラブ、東雲第三学          童クラブオープン          特別養護老人ホーム「東雲芳香苑」オープン          26年ぶりの新設校となる豊洲北小学校開校</p>					



⑤ 年表編

平成21年 深川図書館100周年  
平成元年～平成31年



9	7	5	4
深川図書館100周年	障害者の手づくりショップ「るーくる」区役所2階にオープン 歩きたばこ・ポイ捨て全面禁止 条例施行	区役所北側に環境配慮型駐車場オープン 日本で新型インフルエンザ流行	全区立中学校の学校裏サイトを監視開始 区立小中学校新部活動（女子サッカー・カヌー・ウォールクライミング）スタート 全区立中学校の学校裏サイトを監視開始 集積所回収へ拡大 資源・ごみの分け方出し方変更。サーマルリサイクル本格実施、容器包装プラスチックの資源回収開始、発泡スチロール集積所回収へ拡大 資源・ごみの分け方出し方変更。サーマルリサイクル本格実施、容器包装プラスチックの資源回収開始、発泡スチロール集積所回収へ拡大 携帯サイト「赤ちゃんマップ」開始 万年橋ライトアップ開始

平成21年 万年橋ライトアップ



3	2	1	12	10	9	8	7
江東区基本構想策定	潮見駅エレベーター完成	緊急雇用対策 臨時職員を募集	室橋昭前区長、第48代横綱大鵬の納谷幸喜さんを初の名誉区民として顕彰	全区立幼小中にトランシーバーを配備 区が景観法に基づく景観行政団体に アーバンドックららぽーと豊洲に区のPRコーナー「こうとう」 「キューブ」オープン	使用済み蛍光管リサイクル、回収協力店を拡大 全区立幼小中にトランシーバーを配備	東京都・中央区と合同で総合防災訓練を大規模に実施 区議会本会議のインターネット中継開始 さざんかカード携帯サイトオープン	旧東京市深川食堂（現深川東京モダン館）が国の登録有形文化財に 原油・原材料の価格高騰に対応するため緊急融資「経営安定資金」を実施

平成21年  
(2009)

⑤ 年表編

平成23年 有明小・中学校開校  
 平成元年～平成31年



平成23年 (2011)						
3	2	12	11	10	9	7
室橋昭元区長（江東区名誉区民）逝去 東日本大震災発生 亀戸香取勝運商店街オープン 江東区都市計画マスタープラン改定 亀戸駅周辺で自転車駐車場ポイント制を開始 エコかるた作成 子宮頸がん予防ワクチン助成開始 区役所で電気自動車（EV）の急速充電器の共用を開始 公募地方債）販売 ～みんなで作る江東区～こうとう未来債（住民参加型市場 南砂出張所・同区民館改築オープン 豊洲六丁目第二公園開園 江東区洪水ハザードマップ完成 東京臨海広域防災公園開園 江東区洪水ハザードマップ完成 豊洲六丁目第二公園開園 南砂出張所・同区民館改築オープン ～みんなで作る江東区～こうとう未来債（住民参加型市場 公募地方債）販売 区役所で電気自動車（EV）の急速充電器の共用を開始 子宮頸がん予防ワクチン助成開始 エコかるた作成 亀戸駅周辺で自転車駐車場ポイント制を開始 江東区都市計画マスタープラン改定 亀戸香取勝運商店街オープン 東日本大震災発生 室橋昭元区長（江東区名誉区民）逝去						

平成23年 東日本大震災発生



平成22年 (2010)					
6	4	3	2	11	10
協働事業提案制度スタート 南砂線路公園開園 「江東きつずクラブ」開始 NPO法人との協働による発泡スチロールリサイクル施設「エコミラ江東」オープン 豊洲運河に船着場が完成 区内在住の新田佳浩さんがバンクーバーパラリンピック2種目で金メダル獲得 都内初のプラグインハイブリッドの青色パトカー登場 特別養護老人ホーム「カメラア」開設 江東区長期計画策定 第五砂町小学校改築完了 小中学校耐震化完了 夢の島・青海など区南部地域に住居表示実施 深川東京モダン館オープン 2016年東京五輪招致敗れる 豊洲六丁目公園開園 天皇皇后両陛下 江東区シルバー人材センターへ行幸啓					

5 年表編

平成年元～平成31年  
ソーラーカー「えこつくる002号」



平成23年  
グランチャ東雲オープン



平成24年 (2012)							
6	4	2	12	11	10	9	
高齢者世帯民間賃貸住宅あっせん事業の窓口相談(予約制)区内初の病児保育室開設 新砂三丁目に保育園・介護の複合施設を開設 旧中川改修工事完了式典実施 武蔵野大学有明キャンパス開校、6月に包括協定締結	夢の島区民農園オープン 自転車保管場所夢の島と毛利一丁目に移転・集約	東京ゲートブリッジ開通	区内初の都市型軽費老人ホーム開設 沼津市と災害時相互応援協定を締結	区立小中学校特別教室にエアコン整備完了	区面積39・99km <sup>2</sup> となる	江東区行財政改革計画策定 小学校長縄跳び大会実施 区立小中学校特別教室にエアコン整備完了 区面積39・99km <sup>2</sup> となる	江東区居住支援協議会を設置 ことみゆネットオープン 区内初 区内企業と津波等の水害時安心協定を締結 こうとうこどもスポーツデー2011 第1回江東区オール小学校長縄跳び大会実施 江東区行財政改革計画策定

8	7	6	5	4
有明小・中学校開校 AED区内各施設におおむね設置完了 小学1年生で31人以上の学級のある学校に少人数学習講師を配置 区内初(認可外)保育施設「保育ルーム」富岡・東陽・南砂に開設 区立小中学校特別教室にエアコン整備完了 区内公園等516施設の空間放射線量測定を開始、小中学校の校庭土壌・プールの水質などで放射能測定 小学校全44校に専任の学校司書を配置 豊洲グリーン・エコアイランド構想策定 るくる西大島オープン	豊洲グリーン・エコアイランド構想策定 るくる西大島オープン	豊洲グリーン・エコアイランド構想策定 るくる西大島オープン	豊洲グリーン・エコアイランド構想策定 るくる西大島オープン	有明小・中学校開校 AED区内各施設におおむね設置完了 小学1年生で31人以上の学級のある学校に少人数学習講師を配置 区内初(認可外)保育施設「保育ルーム」富岡・東陽・南砂に開設 区立小中学校特別教室にエアコン整備完了 区内公園等516施設の空間放射線量測定を開始、小中学校の校庭土壌・プールの水質などで放射能測定 小学校全44校に専任の学校司書を配置 豊洲グリーン・エコアイランド構想策定 るくる西大島オープン



⑤ 年表編

平成元年～平成31年  
 平成26年  
 聞かせて!あなたのオリンピック・パラリンピック(第1回)開催



平成27年 (2015)						
3	2	1	10	8	7	
<p>「ことみせ」を開始                  武蔵野大学と選挙連携事業協定を締結                  北砂3～5丁目地区 不燃化特区事業スタート                  深川江戸資料館に横綱大鵬顕彰コーナーオープン                  こどものものづくり体験「JTB旅いく×アウトオブキッズ                  ニア i n K O T O」を開始                  聞かせて!あなたのオリンピック・パラリンピック(第1回)                  開催                  旧三大小記念公園開園                  避難行動要支援者名簿の作成を開始                  介護マーク配布開始                  区の面積40・16㎢となる                  砂町文化センター・砂町図書館リニューアルオープン                  優れた技術や製品を保有する企業を「江東ブランド」として                  認定                  第1回江東区立小・中学校俳句大会「きらり☆こうとう俳句                  祭」開催、俳句集きらり第一集発行                  東京大空襲被災70周年事業「平和のつどい」開催 およそ</p>						

平成26年  
 昭和大学江東豊洲病院開院



平成26年 (2014)						
6	5	4 3		1	12	10
<p>ング・ライフル射撃、障害者スポーツ大会の水泳を開催                  江東図書館リニューアルオープン                  天皇皇后両陛下下行幸啓 スポーツ祭東京2013 国体水泳競                  技をご覧に                  天皇皇后両陛下下行幸啓 スポーツ祭東京2013 全国障害者                  スポーツ大会水泳競技をご覧に                  第二亀戸中学校改築完了                  江東就職サポートコーナーを区役所2階に開設                  障害のある方にヘルプカード配付開始                  昭和大学江東豊洲病院開院                  特別養護老人ホーム「あかつき苑」開設                  江東湾岸サテライト保育所(江東湾岸サテライトナーサリー                  スクール)開設                  俳句教育推進事業を単独事業化                  公共建築物等における木材利用推進方針を策定                  こんには赤ちゃんメール・予防接種お知らせメール配信開始                  学びスタンダード強化講師 全小・中学校で指導開始                  さざんかカード事業に代わり、江東お店の魅力発掘発信事業</p>						

平成28年  
 区の魅力を発信するロゴマーク  
 が決定  
 平成元年～平成31年



平成28年 (2016)					
3	2	1	11	10	9
豊洲シビックセンターオープン こうとう若者・女性しごとセンターオープン 区のブランドコンセプトが「SPORTS & SUPPORT S KOTO City in TOKYO スポーツと人 情が熱いまち 江東区」に決定 マイナンバー制度開始に伴い、「マイナンバーカード（個人番 号カード）」を用いた証明書等のコンビニ交付を開始 ふれあい橋（亀戸9）のライトアップを開始 コミュニティサイクル 近隣3区（千代田区、中央区、港区） との相互乗り入れ実験を実施 区立幼稚園・小中学校の冷房化が完了 第二亀戸小学校・幼稚園改築完了 江東区教育施策大綱策定 地方創生における子育て支援策（市町村まち・ひと・しごと 創生総合戦略）策定 江東区オリンピック・パラリンピック開催準備プラン策定 区の魅力を発信するロゴマークが決定 江東区ブランディング戦略策定					

平成27年  
 豊洲シビックセンターオープン



8	7	6	4
1100人が追悼 横十間川親水公園水門橋にマイクロ水力発電が完成 江東区長期計画（後期）策定 江東区スポーツ推進計画策定 江東区こども・子育て支援事業計画策定 豊洲西小学校開校 豊洲駅地下自転車駐車場オープン 公用車に燃料電池自動車（水素自動車）を導入 生活相談支援窓口開設 こうとうゆーすてつぷ（ひきこもり等支援事業）開始 区の人口が50万人を突破 江東区オリンピック・パラリンピックまちづくり基本計画策定 江東区役所産はちみつを販売 こうとうDE元気！お買い物券（30%プレミアム付き）を販 売 パラカヌー世界選手権大会に区内在住の2選手が出場 東京北砂リトルリーグ世界大会優勝 江東区中央防災倉庫（塩浜1）が完成			

⑤ 年表編

平成29年  
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会1000日前イベントで披露されたテークアウンター



平成29年  
第1回障害者スポーツフェスタ  
こうこう開催



平成30年 (2018)	4	2	10	9	8	7	5
	豊洲ぐるり公園全面開園	江東区原動機付自転車等プレミアムナンバープレート交付開始	中央防波堤埋立地帰属問題 資源・ごみ分別アプリ配信開始	江東区公衆無線LANサービスを開始	新砂運動場リニューアルオープン	中央防波堤埋立地帰属の早期解決に向け東京都へ調停申請	江東区青少年交流プラザ（旧青少年センター）リニューアルオープン
	区内初の義務教育学校「有明西学園」開校	区役所前に大型木製テークアウンターを設置	江東区は受諾するも、大田区が不服とし提訴	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会1000日前イベント開催	区役所前に大型木製テークアウンターを設置	区役所前に大型木製テークアウンターを設置	区役所前に大型木製テークアウンターを設置

平成29年 (2017)	4	3	2	11	9	8	7	6	4
	江東区オリジナル介護予防体操「KOTOいきいき粋体操」完成	区制施行70周年	第1回障害者スポーツフェスタこうこう開催	江東区ホームページリニューアル	特別養護老人ホーム「故郷の家・東京」開設	江東区文化・スポーツ功労章にリオデジャネイロ五輪メダリストのケンブリッジ飛鳥さん、高橋礼華さん、松友美佐紀さん、奥原希望さんを顕彰	区立中学校カヌー部出身の瀬立モニカさんがリオデジャネイロパラリンピック出場	都知事が築地市場の豊洲市場への移転延期を表明	選挙権年齢が18歳以上となって初めて区内で選挙
	区議会ペーパーレス化	区議会ペーパーレス化	区議会ペーパーレス化	区議会ペーパーレス化	区議会ペーパーレス化	区議会ペーパーレス化	区議会ペーパーレス化	区議会ペーパーレス化	区議会ペーパーレス化

6 年表編

令和元年 3度行われた有明1丁目での不発弾撤去の様子  
令和元年～令和7年



平成30年 豊洲市場開場



令和元年～令和7年

6

年代	年	月	できごと
令和元年 (2019)	5	6	「令和」と改元(1日) 有明1丁目のマンション建設現場で発見された不発弾を陸上自衛隊が撤去(9月までに計3回) 都民体育大会で江東区史上初の男子・女子総台優勝
	8	10	区立中学校カヌー部出身の瀬立モニカさんが東京2020パラリンピック出場内定 中央防波堤埋立地帰属問題が判決確定により終結 約8割が江東区に帰属 台風19号 江東区として初めてとなる避難勧告を発令 小名木川防災公園オープン
令和2年 (2020)	2	3	第2期江東区長期計画策定
	3	2	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会1年延期決定

平成31年  
(2019)

7	11	3	4
「がんの夜間相談窓口」をマギーズ東京に開設 オリンピック・パラリンピック競技を体験する「KOTOスポーツキャラバン」東京2020開始 第五大島小学校 新校舎完成 区役所本庁舎駐車場が有料化 江東区PRラッピングバス走行開始 豊洲市場開場 「江東」ナンバプレート提案デザイン決定 総合区民センター駐車場が有料化 江東区放課後こどもプラン策定 こうとう区報創刊2000号 コミュニティサイクル100ポート10000台突破 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会、区独自ボランティア「江東サポーターズ」募集開始			

6 年表編

令和元年～令和7年  
 令和4年 夢の島スケートボードパーク  
 プン



令和2年  
 中央防波堤埋立地の町名が公募  
 により「海の森」に決定



令和5年 (2023)											令和4年 (2022)		
11	10	8	7	6	5	4	12	11	8	7	5	4	3
山崎孝明前区長を名誉区民として顕彰											地下鉄8号線〈有楽町線〉(豊洲～住吉)の延伸事業着手		
区立小・中・義務教育学校の給食費無償化開始											亀戸子ども家庭支援センターオープン		
深川八幡祭り6年ぶりに開催											子どもプラザ(住吉子ども家庭支援センター・子どもプラザ図書館)オープン		
江東区花火大会4年ぶりに開催											こんには赤ちゃんLINE開始		
こうとう電子図書館開設											パレットタウン閉館		
天皇陛下が中川船番所資料館を視察											夢の島スケートボードパークオープン		
防災カタログギフトを全世帯に配付											江東区環境検定開始		
江東区花火大会4年ぶりに開催											区営砂町魚釣場・豊住魚釣場閉場		
山崎孝明区長逝去											障害者入所施設「Up to you 塩浜 Living」オープン		

令和3年 (2021)										
11	8	7	4	12	10	9	5	4		
東野有紗さんを顕彰										
江東区文化・スポーツ功労章に堀米雄斗さん、渡辺勇大さん、競技を実施										
江東区公式LINE開設										
東京2020パラリンピック競技大会開幕 区内7会場で8競技を実施										
江東区出身の堀米雄斗さんが東京2020オリンピック競技大会スケートボード(ストリート)で金メダル獲得										
「ゼロカーボンシティ江東区」を表明										
「奥の細道サミットin江東」開催										
新型コロナウイルスワクチン接種開始										
区立幼稚園で3歳児保育・預かり保育開始										
新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言発令										
区面積42.99km <sup>2</sup> となる										
東京国際クルーズターミナル開業										
図柄入り「江東」ナンバープレート交付開始										

# 写真で見る江東区

昭和48年度  
新庁舎（現在の区役所本  
庁舎）工事



昭和49年度  
汐見橋より木場2・3丁目  
を望む



昭和51年度  
江東清掃工場―新木場方面



令和6年  
豊洲千客万来オープン



令和6年 (2024)	令和7年 (2025)
2	6
豊洲千客万来オープン	江東区公式 Instagram 開設
有明こども図書館オープン	東京辰巳アイスアリーナオープン
江東区出身の堀米雄斗さんがパリ2024オリンピック競技 大会スケートボード（ストリート）で金メダル獲得	東京2025デフリンピック開幕 区内3会場で3競技を 実施
3	9
返礼品付きふるさと納税受付開始	江東区公式 Instagram 開設
こうとう区報リニューアル	東京辰巳アイスアリーナオープン
江東区文化・スポーツ功労章に堀米雄斗さん、渡辺勇大さん、 五十嵐有紗さんを顕彰（2回目）	東京2025デフリンピック開幕 区内3会場で3競技を 実施
4	11
第2期江東区長期計画（後期）策定	江東区文化・スポーツ功労章に堀米雄斗さん、渡辺勇大さん、 五十嵐有紗さんを顕彰（2回目）
江東区こどもの権利に関する条例施行	江東区新庁舎建設基本構想策定、基金の積立を開始
大島九丁目すすく公園オープン	海の家公園オープン
砂町区民農園オープン	第2期江東区長期計画（後期）策定
江東区公式 Instagram 開設	江東区こどもの権利に関する条例施行
東京辰巳アイスアリーナオープン	大島九丁目すすく公園オープン
東京2025デフリンピック開幕 区内3会場で3競技を 実施	砂町区民農園オープン

## 写真で見る江東区

昭和60年度  
江東区スポーツ会館前  
水上バス



平成3年度  
建設中のレインボーブリック  
ジと臨海部



平成3年度  
木場公園



## 写真で見る江東区

昭和55年度  
臨海部埋立地全景



昭和56年度  
旧中川・東大島近辺



昭和58年度  
有明テニスの森公園

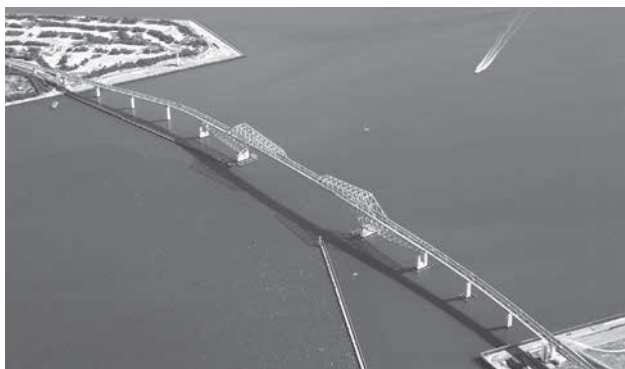


## 写真で見る江東区

平成18年度  
白河・三好地区再開発



平成23年度  
東京ゲートブリッジ開通



平成27年度  
発展が続く豊洲地区



## 写真で見る江東区

平成8年度  
東京ビッグサイトオープン



平成12年度  
亀戸駅周辺



平成14年度  
開発が進む東雲地区



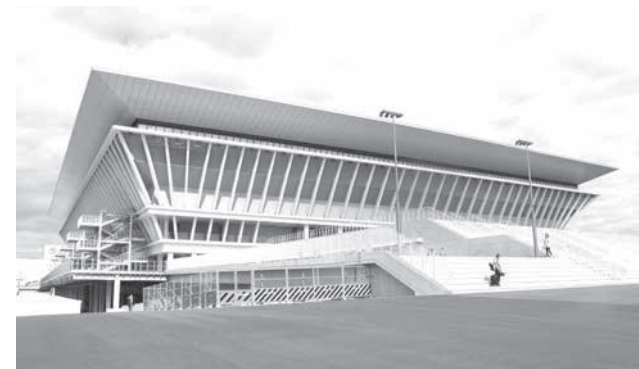
## 写真で見る江東区

平成30年度  
豊洲市場開場



令和元年度

（上）海と完成するオリンピック・パラリンピック競技会場  
（下）東京アクアテイクスセンター



# 江東区

### 江東区のあゆみ

昭和58年3月25日  
第1刷発行  
令和8年3月31日  
第13刷発行

印刷物登録番号	(7)66号
---------	--------

IB2000

編集発行 江東区政策経営部広報広聴課  
江東区東陽4-11-28  
電話 (3647)9111 (大代表)

印刷所 株式会社太陽美術  
江東区清澄2-7-11  
電話 (3642)6045